

国づくりと研修

122
AUTUMN
2008

●特集●

歴史資産を活かす



旧三池炭鉱万田坑

明治の初めに本格的な石炭の採掘がはじまった三池炭鉱。
万田坑はその主力坑で、1902年から1951年まで採掘された。
この国の工業近代化を支えた炭坑の巨大な2層坑構と巻揚機機室は
赤く錆び、年月に染み付いたまま空にそびえている。



フォト
シリーズ 近代水道施設③

高松市水道資料館 歴史館・PR館

(香川県高松市)

高松では明治に市制が施行されると、街の近代水道整備が望まれた。東京帝大・中島鋭治の調査により香東川系水源案が計画され、大正6年(1917)に御殿浄水場事務室(現・PR館)、翌年には同ポンプ室(現・歴史館)が竣工し、大正10年から給水を始めた。新施設へ代が替わり、現在は旧ポンプ設備を展示するなど水道学習の場として生まれかわった。二棟を結ぶ通路敷には旧ろ過池側壁の煉瓦を転用するなど、すべてに無駄のない活用がなされている。

(写真と文・小野吉彦)

特集

歴史資産を活かす

- 4 まちに残したいもの 石渡玲子
- 6 インタビュー・大濱徹也氏に聞く
歴史に学ぶということ
- 10 対談 歴史資産を、魅力的な地域づくりにどう活かすか
望月照彦×島津公保
- 16 歴史資産を活かす技術
土木学会歴史的構造物保全技術連合小委員会 (CHEW) の活動
北河大次郎
- 18 北海道の土木遺産を活かす
土木遺産ツアーのこころみ 原口征人
- 22 身近な歴史遺産活用の多様性
都市のクロスセクション・近代水道遺産 岡田昌彰
- 26 日立市の原点「共楽館」と市民運動



かつての芝居小屋「共楽館」

- 36 まちの色 風土の彩り
社寺のある都会の風景 葛西紀巳子
- 38 日本の原風景 活きつづける農業土木遺産
石川県珠洲市の農業土木遺産 後藤 治・二村 悟／小野吉彦
- 32 散歩考古学 大江戸インフラ川柳
橋の番たしかに投げた水の音 松本こーせい
- 42 新河相学堂からのメッセージ
消えない水害の記憶
～秋田県田沢湖生保内の人たちの取り組み～ 丸井英一
- 46 縮小時代・地域づくりの知恵
既存集積を活用した中心市街地の再生 佐々木 正
- 48 KEYWORD
国土交通白書2008より
- 52 OPEN SPACE
八田與一の功績と精神にふれて
- 28 教育現場を訪ねて
ものづくりの面白さを伝える「たたら」の復活
NPO法人「ものづくり教育たたら」で指導員を養成中
- 50 センター通信
景観実務研修の受講生から始まった景観の輪
- 53 ほん
『偽善エコロジー』／『明日を支配するもの』／
『東大アメニティ木材学とウッドヒューマンリレーションズ』／『日本には建設業が必要です』
- 62 INFORMATION
ワークショップ「土木と学校教育の接点」／高橋裕先生のお話を聞く会
- 54 業務案内
「技術検定試験」／「建設研修」／「監理技術者講習」／「刊行図書」／「札幌理工学院」

edit & design

緒方英樹 / 高梨弘久
岩下真子



①杉並区の公園として、建物ごと整備されることになった旧近藤邸 ②テラスを兼ねた玄関ポーチから居間を見る（旧近藤邸）
③建具がみごとなT邸は、現在、利活用を考えている ④玄関を開けると、美しいステンドグラスのあるK邸

まちに残したいもの

石渡 玲子

「建物の面白さは内観にあり！」建築探訪を趣味とする私の持論です。

今でこそ近代建築に関する記事を書かせていただくようになりましたが、十数年前まで、建築に関しては全くの門外漢でした。東京近郊に残る戦前の建物を見て歩いているうちに、内部を見学するチャンスが増え、少しずつ建物の見方が分かってきた頃、とある甘いものの業界の会館（昭和初期に建てられたもの）に出会いました。中に入ったとたん、「こんな空間が広がっていたのか」と驚きました。私の大好きなアールデコのデザインが床や扉、階段の手すりなど、そこかしこにちりばめられていたのです。その時代の内部空間が実に新鮮で、ますます近代建築に魅了されていきました。

住宅に関しても同じで、一見、地味なのに、中に入ると豪華な造り、というお宅をいくつも拝見しています。「外観は出来るだけ質素に。されど、内部は贅沢に」という日本人古来の美德から、わざとそのような建てられた住宅もあります。

私の住む杉並区は、東京の郊外住宅

いしわたり・れいこ

フリーライター

1960年東京生まれ。雑誌を中心に執筆する傍ら、「杉並たてもの応援団」のメンバーとして、近代建築の保存、活用、調査などにも関わる。

2001年より(財)日本チャリティ協会主催「障害者カルチャースクール」書道コース講師、書道教室「鶯翠塾」講師を務める。

<杉並たてもの応援団>

1999年、杉並区内の建築家を中心に結成された市民グループ。現在、コアメンバーは10名。区内に残る歴史的建造物の悉皆調査や、保存・活用の支援が主な活動。2006～2007年に区と協働で聞き取り調査を行なう。一般向けに見学会などを開催し、広く建物の魅力を紹介している。

ホームページ<http://www.pp.em-net.ne.jp/g036862/>



として関東大震災後、急速に発展した地域です。軍人、教員、芸術家などが当時流行した洋風住宅や、洋館付き和風住宅をこぞって建てたのですが、近年、それらの住宅が次々と取り壊されています。この時代の建物は、部材もよく、職人の手仕事も充実しています。今、もう一度同じものを建てようとしたら、膨大な費用のかかるものばかりです。それらが壊されてゴミになってしまふ状況を、なんとか食い止めたいと思う有志が集まって「杉並たてもの応援団」が結成され、私もメンバーとして活動しています。

ただ、建物保存の主役は、あくまでも所有者です。所有者が建物を残すと言わない限り、どんなに価値のある建物であっても残すことは出来ません。もしも、私たちのメンバーが「ドリムジャンボで三億円」に当たったとしたら、壊される前に建物を買い取るところですが、残念ながら、そんな幸運の持ち主はいないようです。私たちに出来るのは、所有者を周りからサポートし、応援することしかないのです。

そこで、私たちは、価値ある建物の所有者にヒアリングをし、建物調査をして、よりよい形で保存活用していく方法をいっしょに考えています。こういったお宅に、私たちが薦めているのが、国の「登録文化財」制度です。相続税やリフォーム時の設計料の優遇というメリットもさることながら、意外なメリットが、登録証である緑のプレートが建物に備え付けられることなのです。これがあることで近隣や道行く人から「ただの古い家じゃなく、由緒ある建物なのね」と、認めてもらうことが出来、それが所有者にとって建物を維持していくモチベーションになります。

そんな地道な活動をする私たちにとって、今年の春、うれしいニュースがありました。土地を地主さんに返すため、存続のあやぶまれていた大正末期の洋風住宅が、区の公園として建物ごと整備されることになったのです。この家は、メンバーのひとり「杉並『まちデザイン賞』に推薦したこともあり、以前から親しくしていたお宅です。

アニメ映画監督、宮崎駿さんの著書『トロの住む家』で紹介されたことから地元の人にも親しまれ、町内会を中心に保存を要望する署名六三〇〇人分が区に提出されました。それを受けて、区が保存を決定し、現在、整備が進められています。

この家に長年お住まいだった近藤さんは、「建物を残すには、一人の力だけでは無理。みなさんのおかげで奇跡のような結果を生んだ」と振り返られています。建物を大切に使うてこられた結果、建物の価値を見出す人がいて、それを紹介する人がいた。保存しようとする人がいて、それをバックアップする地元住民がいた。そして、区役所に熱意ある職員がいたこと。どれも欠かせない要素は難しかったと思います。そういった意味では、たまたま残ったのではなく、残るべくして残った建物といえるでしょう。

この建物のように、保存されるべき近代建築は、全国にまだまだたくさんあります。ぜひ、ご自身の目で価値を見出して、応援してあげてください。

特集

歴史資産を活かす

かわかる。そういう目線がないまま、これは立派な遺産ですという話になってくると、全く無味乾燥な話になってくる。そういう遺産を見るというのは、その土地の顔を読むことだと思っ
たんです。その土地の顔を通して、広い日本とい
うのはどうなのかを見ていく。「何でこんな立
派なモダンな西洋建築があるのに、いまこの村、
過疎になってしまったのか」というのに気づい
たりする場面が設けられれば、そこから時代を
読み直すことができます。

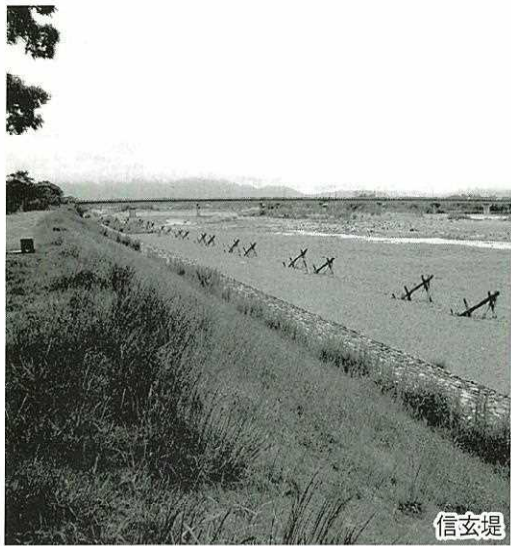
景観を読むということ

それは、指定された近代化遺産でなくても、
住んでいる日常の場にあるわけです。そういう
意味で言うと、景観を読む、風景を読むことの
大事さをまずは教師自ら知らなければならぬ。
私たちは、まちを歩いていてもあまり見てい
ないんですよ。でも、そこで立ち止まって、
何でここに樹齢何年のこんな木が残っているの
かとか、それに気づいたときに、景色というの
は文化になると思うのです。その地の人たちの
営みというのが見えてくるからです。そのた
めには、大地に根ざした見方をいろんな形で問
いかけていくのが、私なんかの仕事ではないか
と思うんですけどね。

なぜ景観を読むことの必要性を考えるように
なったかと言いますと、日本列島というのは、
亜寒帯から亜熱帯まであって、一つじゃないと

いうことです。そこが一つにまとまった世界と
か歴史を持つているはずがない。そうすると、
沖縄から見た世界と、蝦夷地と言われた北海道
から見た日本の歴史は違つてしかるべきなのに、
あたかも明治になって出てきた日本の歴史像が
自明のものだとするところから問い直してい
かないとならない。そういうことは、小学生に話
しても、かなり理解できる話なんです。

風景を読むとか、残されたものを学校の教師
が読み取るためには、たしかに大地の営みを記
録した資料や文献、情報などを知識として持た
なければなりません。たとえば東京で言うと、
徳富蘆花は明治末年から現在の蘆花公園に住ん
でいましたが、そこでの暮らしを『みみずのた
はこと』にまとめています。烏山あたりの村の
営み、風物が出てくるわけです。あの辺の農民
が東京に汲み取りに行く、そういう中で甲州街
道の沿線が描かれているわけです。教師がそれ



信玄堤

を読むと、世田谷あたりのいまの展望というの
がもつと見えてくると思うのです。

教師に求められるのは、ある意味では、土地
や風景を読むためにも、風景がこうだったとい
うよりも、その背後にある世界を聞いていく。
小学校なんかの先生に一番大事なものは、教えて
いる場所がどんな場所なのかを知るか知らない
かで、説得力が違うのではないだろうか。

いまに生かしたい、国土づくりの経験値

景観を読んでいくと、必ず見えてくるものが
土木事業です。

土木というのは、古来から、自然と人間との
かわり目の一番の接点だからです。その接点と
は何かといったら、「水」が大きく関わってい
ると思います。災害や米づくりといった人間の
暮らしを整えるために、堤防や堰、川の改修な
どの土木工事が絡んでくる。だから、どうい
う形で人間が自然と折り合いをつけながら生きて
きたかという視点が、一番基本のところにある
のだと思うんですけどね。

たとえば、武田信玄の領国経営が可能になっ
たのは、要するに国土―領地全体を経営してい
くだけの統一権力が持てたからです。戦国大名
は、ある意味で言えば土木技師なんです。治水
や河川改修などといった土木の能力がないかぎ
り、統治が出来ない。そうした人と自然の関わり
を、現在も残っている信玄堤などを通して教

えることができます。

楠木正成は千早城にずっと住んでいたかという、住んでいないわけでしょう。戦争のときだけ入る。あのときにはまだ河川のかんがいが技術とかがなくて、自然かんがいの中で農業を営むから谷戸田やとだのなものでした。それが、土木技術を導入して工事がやれるようになってから平城に移ってくる。そうすると城下町という問題が出てくる。そういう視点で見ると、単に山城から平城に出てきて、当時は小さい城主だったからというつまらない説明で終わるかです。ぶん違っています。

明治時代になって、土木に従事した人たちは、小樽築港をした広井勇にしても、その弟子であった青山士にしても、「われ国民のために何をやるか」という志がありました。港をつくる、堤防をつくる、何をするにしても、人々がよい暮らしをするためにはどう生きるべきかという思いがものすごく強かった。青山は、アメリカに単身で渡り、パナマ運河工事に一介の測量助手として入り、苦勞を重ねて最後は設計技師にまで昇進する。そして、日本に帰ってきてから荒川放水路工事や信濃川大津分水路補修工事を完成に導きます。その完成碑文に自分の名は記さず、「人類のため」と刻み込んだ青山の生き方が、今でも私たちに問いかけているものは何なのか。そうした形で生きた人、ものづくりの原点を示した人が、その時代、たくさん

ますね。河川における自然主義がいまになって見直されている岡崎文吉は、石狩川にその思想と技術をもって生涯を尽くしました。

明治新政府が、東北地方最大の国家プロジェクトとして計画し、未着手のまま幻と化した野蒜築港のびの問題にしても、政府は将来に何を描き、どのように国づくりをしようとしたのかという話とともに、もし野蒜にあの港が実現していたら地域、さらに日本はどう変わったのかなど、野蒜港の挫折を通して学ぶことは、いまを、そして、これからをどう生きるかにとって大きな問いかけになるでしょう。

何だかんだと言ったって、かなりのお金、資金を投資してそこでつくられたものというのは、それなりに国民の要望もあってつくっただろうし、それが逆に邪魔者になったものもあるだろうけれども、負は負として見て、それは、当時の人たちがこういう意識でやったんだという形で検証し、二度とその負を繰り返さないようにすることがあってもいいわけです。こういう経験値を学んでいくかというのが必要ですね。

だから、いまある近代遺産というのは、滅びの象徴でももちろんなくて、いまある、生きているもの。そして、それをつくることによって人々の暮らしがどうなってきたかという見方、それを生み出した人たちはどんな思いだったかというところに目を向けることが大事です。現在いまをどう読み取るかという部分を抜かした、あ

る種の展示みたいなので見ると、「ああ、昔のものね」になってしまいうから、歴史が生きてこない。そこには「遺産」といわれるものを現在に残してきたのはなぜかという問いかけがない。これらの遺産はある意味で言うともちやや村の記憶のよりどころだったわけです。

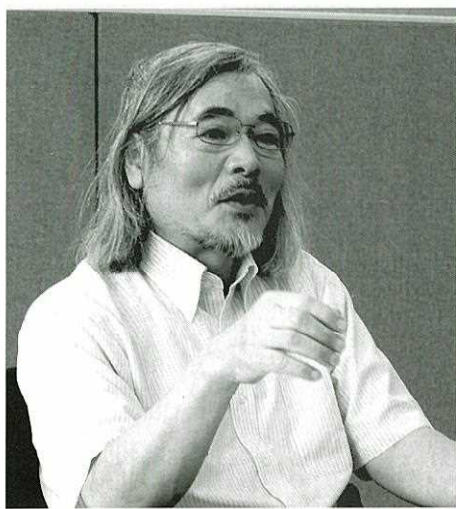
歴史を学ぶ、追体験するということは、これらの遺産を場として、いかに想像力を働かせるかということにあります。

先ほどの青山士が、若き日に内村鑑三の「後世への最大遺物」を読み、「人間だれでもできるのは、いまの世を生まれたときより少しでもいい世にして次に伝えたい」という思いを持ち、土木技術者たる己の原点にしたことを知ることから、民衆を幸せにするための土木事業にどう至ったかという教師の導きも生きてくる。子どもたちも理解し、共感する。そこから、「私たちは、どう生きるの？」という問いかけにつながるわけです。近代遺産のあり方と大いに関わるとは、こういうことだと思っています。

その問いかけの仕方は、「私たちはどう生きるの？」から、「少しでも社会をよくするためににはどういうふうを考えればいいのか」に発展させる。考えるためには、昔の人はそのためにどんな営みをしたのかという基本的な問いが、社会科とか歴史では一番大事なのではないでしょうか。



歴史資産を、魅力的な地域づくりにどう活かすか



もちづき・てるひこ

多摩大学大学院教授
地域経営論・まちづくり論を研究と実践の対象とし、全国の地域の元気づくりをサポートすることを志としている。
近年、産業観光等地域経営のビジネスモデルづくりを、民間組織・観光地域経営フォーラムで果敢に取り組んでいる。

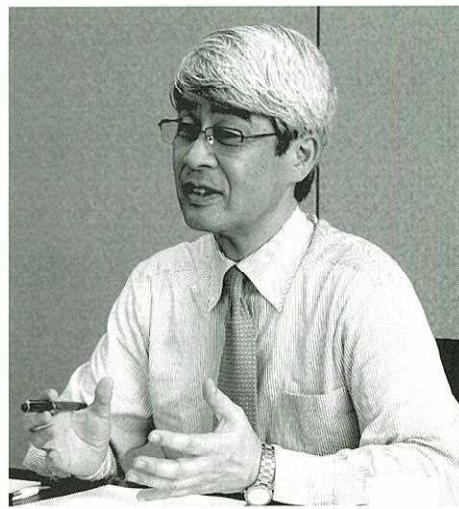
「われわれは、これから産業資産そのものを考えるについても、その資産だけではなく、それが持っている国際性とか、国全体に関する意味ということを考えながら、全体性を追求していく視点が大事だなと思います。」

対

談

望月照彦

島津公保



しまづ・きみやす

株式会社島津興業副会長
島津家700年の歴史資産を活かす「島津ヘリテージ」理念のもと、薩摩の歴史的、文化的価値の再創造運動である「薩摩ルネッサンス」運動を推進中。鹿児島県観光連盟理事ほか観光関係団体役員を務め、地域振興、観光振興に努めている。

「薩摩ルネッサンス」のコンセプトは、正しいものを、本物をきちんと見きわめていく、これをしっかり深掘りしていく。一方から見ただけではなくて、かなり多面的に見て、昔の姿を立体的に浮き上がらせていくということなのです。」

いまなぜ歴史資産が注目されるのか

望月 NHKの大河ドラマ『篤姫』が大変な視聴率を上げているようですね。ある種、歴史返りという現象があるのかもしれませんが、まずは、なぜいまこれほど歴史が注目されるのかというところから入りたいと思います。

時代がやはり混乱していますね。国家も、地方、地域もなかなか見通しがきかない。グローバルな世界では、サブプライムローンの問題も含めて、この先に希望や光がなかなか見つけにくい。そうすると、どうしても過去の歴史にモデルを見つけようという動きがあるのではないのでしょうか。

それで、なぜいま歴史資産かというと、地域に残されている土木遺産や産業遺産、いろいろな文化遺産も含めて、そこに埋められている過去の遺伝子のようなものを解読して、未来への大きなヒントにするというような動きが、底辺にあるのではないかと思っています。

こういう運動をずっと続けてこられた島津さんは、この辺をどんなふうにお考えでしょうか。島津 まさに、いま言われた先が見えない時代だからこそ、過去のものに学ぶという必要性が強く求められていると思います。

それから、団塊シニアがいろいろなところで動いているのではないのでしょうか。定年を迎え、ある程度自由に時間とお金を使える世代の人た

ちが、知的興味を持って歴史資産というものに注目している感じもしています。

それと、施設側も、歴史資産をより磨いて生かしていこうという動きが結構出てきています。九州は特にその辺が顕著です。熊本城は、昨年の築城四〇〇年に合わせて施設整備を行ってきて、今年四月から本丸御殿を再現して公開しています。これまでであった歴史資産の価値をさらに高めるような動きによってまた注目される。

佐賀城も本丸御殿の一部を復元しましたし、長崎では和蘭商館跡復元事業で出島を蘇らせようとしています。それらは、単なるつくりものではなくて、本物をしっかり調査研究した上できちんとした整備をやっている。それら施設の入場者数かなり伸びたというデータは、まさにそういうものを求めている人たちと施設側の動きがマッチしたのですね。

望月 一つは、高度成長期を引っ張ってきた人たちがリタイアすると、今度は前ばかり見ないで、過去を少し振り返ってみようという動きが出てきたという指摘は面白いですね。

そういう人たちがやってきた経済開発は、新しいものを地域にどんどん導入してくるやり方でしたね。つまりは、使わない古いもの、いわゆる歴史的な資源は壊す対象でもあった。

ところが最近、新しいものだけでなく、むしろ地域に残されたものに価値がある、その価値を磨くことによって、地域の個性とか比較優位

性をつくり上げていこうというような発想が出てきたということでしょうね。

島津 高度成長期からやがてバブルの時期も迎えるなかで走ってきたら、どこも同じようなまちができてしまった。ところが、やはりこれではいけないという反省が出てきた中で、地域らしさを見直そうという動きが出てきた。そこから身近な歴史的資産にも着目するという動きになってきているのだろうと感じております。

歴史資産の価値を見直す

望月 まちづくりとか地域の再生を考えるときに、マネジメントという発想が求められます。そのマネジメントとは何かというと、経営資源をどう考えるかということです。

たとえば、観光で言えば、美しい風景や街並みを見て感動するという自然・文化資源がある。しかしどうもそれだけではなくて、これからは新しい経営資源というものは、地域に残された産業の残滓とか遺物と思われるものにもある。それが、自然資源と同時に地域の宝ではないかという発想が生まれてきたのですね。

イギリスは、産業革命で環境が非常に破壊されていきました。産業遺産も同時に壊されてきたのですが、私が行った一〇年ほど前のことですが、むしろ地域に残されている歴史資産に大きな価値を見出す発想に転換していました。

世界初の鉄の橋であるアイアンブリッジは、

長い年月が経ち、鉄が錆びてきて危険だから取り壊そうということになったのを、住民が、これは地域に残された大事な遺産だから、それらをベースにして何か地域おこしができないかなという一つの大きな動きが起こりました。

それから、グレイブスハムという工業都市は、ドーバー海峡に面した港町でもあります。イギリスの各地に散っていくゲートシティというところで非常に栄えていた。ところが、交通手段が船から飛行機に移行すると、人がすっかり減ってしまい、産業もすっかり廃れてしまった。

それが、数年前に訪れると、すっかり元気になっている。その元気の理由を知るために、まちのタウンマネジメントをやっているサンガさんに案内してもらいました。すると、港も昔のまま、古いレストランもある。木造三階建てで、昔のビクトリア様式の港町商店街も取り壊そうとされていたのを保存・再生した。民間の住宅開発の会社と市の都市開発部門がジョイントして、一階を商店として再生、二階を若い芸術家のアトリエとして開放、三階を若い夫婦なんかのアパートメントにしたという。廃れてしまったハイストリート全体を、古い残された遺産を活用しながら新しいニーズに対応した展開をしていった。それら遺産がいわゆる地域活力のインキュベーションセンターになったわけです。

それで、サンガさんに、「すばらしい。このまちの開発コンセプトは一体何ですか」と聞いた





仙巖園

年前で、われわれの企業の成り立ち、島津家が歴代ずっと持っていた歴史資産をベースにして運営してきたのですが、そ

ら、「答えは一つ、ヘリテージタウンだ」と言う。ヘリテージというのは遺産とか資産ということですから、歴史遺産を活用したまちづくりなんです。いまイギリスでは、基本的には二つのまちづくり、地域再生の考え方があります。その一つがヘリテージタウンで、二つ目がヒストリカルタウン、歴史を大事にしたまち。だって、これからは、これからヒストリカル・ヘリテージ・タウンだと欲張っているんだけど、これだなと思ったわけでありませう。

島津さんのところは、ずっとそういう歴史遺産を抱えてきたわけで、その辺に価値を見出したきっかけはどんなところにあったのですか。

島津 いま「ヘリテージ」という言葉が先生が使われたのですけれども、われわれの企業コンセプトを「島津ヘリテージ」としたのが十五、十六年前です。われわれ

れをより明確に打ち出す意味で、「島津ヘリテージ」という言葉を使ったのです。それは形あるものだけではなくて、目に見えないもの、その当時の志や考え、薩摩の精神的なものまで含めています。

われわれとしては、島津家ゆかりの仙巖園という大名庭園施設を代々ずっと長く運営してきたわけですが、ちょっと視点を変えて、従

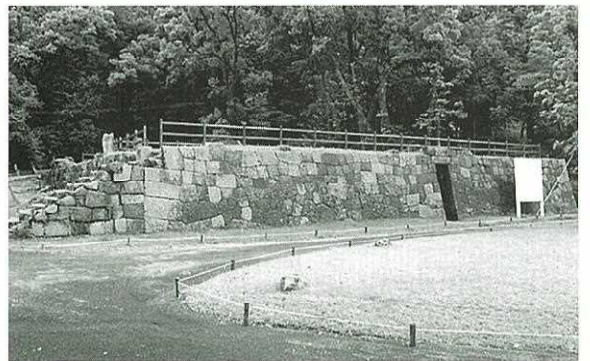
来型の名所旧跡という扱いはない、われわれが持つ資産というものをもうちょっと深く掘り下げようと注目したのが、集成館事業遺産ということなんです。

歴史遺産の中でも特に産業遺産に注目したのは、その当時、産業遺産を活用した地域というのが、比較的元気がいいところが結構出てきていたというのはありますね。

いま先生からイギリスの事例がお話しされましたけれども、たとえば、国内で言えば門司港レトロ、あそこも、古い街並みと新しい都市機能をミックスさせて都市型観光地となっていて、門司港というのは、いわゆる貿易の港として一時期大変栄えた時代があったわけですが、それが寂れた状態であったのを、いろいろな昔



尚古集成館正面



反射炉跡

の産業遺産としての建物を移築・整備した。

それから、滋賀県・長浜の「黒壁のまち」も、初めは、いわゆる黒壁銀行が撤退して、その建物だけが残って、そのメインストリートは本当に閉古鳥が鳴いていた状態だったのを、ガラスという切り口で、黒壁の建物を中心としてまちを再生させ、ものすごい集客となっています。

そういう事例を結構見聞きしておりましたし、たまたまそういう時期に、先生の話されたイギリスのことなど海外の産業遺産を活用した事例を知ったり、見たりすることによって、大名庭園としての価値プラスアルファの価値をわれわれのエリアに付加できるのではないかと考えました。

望月 ちょうど一九九〇年代、日本各地でまち

づくり運動が非常に盛んになりました。その背景の一つには、中心市街地の空洞化。あるいは観光のいろいろな対象地もだめになってきて、どんどん観光客が減ったりして、何とかしなければいけないという動きが出てきましたね。

それで、先ほどお話があった黒壁など幾つかの成功例がありますが、その成功のポイントは、中心市街地を舗装したり、アーケードをつくったり、ハードの対応をするところもありますが、何かそういった余分な手を加えるものではなくて、むしろ昔あったものをうまく現代に復活させて、それをいまの視点で磨き上げるというようなソフト中心のまちづくりの手法のほうが有効ではないか、と考えられるようになりました。

私が島津さんにお招きを受けて現地に行ったのは、二〇〇一年位でしたか。当時から、地元
の歴史遺産を見直して活用しようという動きが、磯の歴史研究会なんかで活発に行われていた。
そこで集成館や石造りの博物館、庭園などを案内していただいて驚いたのは、それらは先進国だったヨーロッパやアメリカの技術論をただ単純に左から右に模倣したのではない。伝承されてきた地域独特の知的な風土で再創造した。そこが、日本のこれからの未来に大きな意味を持つのではないかと、逆に、ものすごく大きなテーマをあのときにいただいた。その根源となる「薩摩ルネッサンス」、実は、十数年も前から発想されていたのですね。

「薩摩ルネッサンス」から世界遺産へ

島津 「薩摩ルネッサンス運動」というのは、これまでわれわれが活動してきたことを一つの総称という形で表現しています。「薩摩ルネッサンス」は、「薩摩が最も輝いた江戸後期を中心とする薩摩の歴史的・文化的価値の再創造」と定義されます。そして、そのコンセプトは、正しいものを、本物をきちんと見きわめていく、これをしっかりと深掘りしていく。それも、一方から見るのではなくて、かなり多面的に見て、昔の姿を立体的に浮き上がらせていこうということです。

そもそもその流れは、二〇年以上前に、島津斉彬時代のお庭焼きを復活させたことから始まります。その後、薩摩切子の復活に成功します。そして、それらをもっともっと総合的に正しく評価して、現代に生かせる工夫をしていこうという取り組みを始めました。

ところが、集成館事業という近代化事業についてほとんど研究がなされていなかった。私と



復元薩摩切子・足付蓋物

しては逆にびっくりしたわけです。そこで早速、地元鹿兒島の

大学に行きまして、ぜひ一緒に共同研究をしたいと話しました。尚古集成館には学芸員という歴史研究の専門家がいる。鹿兒島大学には、産業技術史や工学部の技術のわかる先生がいる。それらがチームをつくってスタートさせたのが、薩摩のものづくり研究です。

それを始めたちょうど同じようなタイミングで、今度は、全国規模の江戸のものづくり研究に文部科学省から五年間の予算がついて一層加速しました。

ですから、われわれが持つ資源を認識し直したことが、ある部分では出発点で、それを望月先生をはじめ先生方の協力をいただいて、歴史資産の持つエネルギーを現代に生かしていく道づくりをしているところです。

そして、今度は、アイアンブリッジ 溪谷を世界遺産登録した際の中心人物であるスチュアート・スミス先生にも鹿兒島に来ていただき、見ていただいた結果として、すばらしいという評価をいただいたので、それがさらに、最終的には世界遺産登録しようという動きにつながっていくわけです。

わかりやすく伝えるということ

望月 結局、地域の産業遺産なりを使って地域おこしをするといったときに、かつての観光の対象のお客さんに同じように見てもらうのではなくて、産業資産をどういう形で披瀝するのか、



あるいは見てもらうのかというコンセプトがとても大事ですね。

島津 産業遺産というのは、見たときに、結構わかりにくかったりする。そのために、その中に潜んでいるストーリーですとか、その事業にかかわった人の志、考え方、精神とか、そういうものを伝えることが一番大事なところで、それが見る方に、感動してもらえないのではないのでしょうか。そこでわれわれはいま、そうしたことを伝えられる語り部さんの役割を担う方を配置する取り組みをしています。

望月 その語り部は、特別に養成したり、あるいは市民の方にお願ひしたりとか、そういうことをおやりになっているのですか。

島津 両方あります。われわれが抱えている語り部さんもありますし、より専門的であれば、集成館の抱えている学芸員もいる。市民のNPO活動として、「かごしま探検の会」の人たちも本来によく勉強されています。われわれの施設だけではなくて、もっと広がりを持った形で、まち歩きをしながら、そういうところをご案内する取り組みももう既に始まっています。

望月 島津さんたちのご努力が、ようやく市民レベルまで浸透してきたということですね。

考えてみると、日本の近代技術の端緒が集成館にあるのだけでも、一二〇〇人が働いていた集成館の組織論、次々に技術開発していくイノベーション論、全国から技術者を集め育成し

た人材論など今後の二一世紀の日本の課題へのヒントが深く内在しているのが、この集成館事業そのもののように思えます。明治以降の日本の経済を支えたものは繊維産業だったわけですが、各地に起こった繊維を中心にした殖産興業の芽は薩摩から起こって、その薩摩の胞子がいろいろなところに飛び火して展開していった。実はいま、地域産業再生が問われていて、ついそのヒントを外国に求めるのですが、われわれが求めていた一番大事な地域構想力は、日本の足元の、しかも江戸から最も離れた薩摩にあつたという、この感動というか驚きを、私たちは薩摩の産業観光から得ることができるので。その意味で、この薩摩遺産は世界的な価値を保有すると私は思います。

世界遺産についても、正式に認定するために幾つかのステップがあたりだろうし、歴史資産を活用して大勢の方にこれからも薩摩に来てもらうということを含めて、まだいろいろな壁とかがあるわけですが、そういうもの乗り越えていく方策についてどうお考えでしょうか。

島津 もちろんこれは行政と一体になって取り組まないとできません。鹿児島県、あるいは鹿児島市と一緒になって取り組み、鹿児島県が九州各県に声をかけ、山口県まで広げて、九州・山口の近代化産業遺産群という形で世界遺産登録を目指しているわけですが、この意義というものは、日本独自の近代化への取り組み過



島津齊彬肖像

程が残っている遺産群においてそれが検証できるところに大きなポイントがあると思います。

日本の近代化というのは、当時のヨーロッパの先端技術を導入して、まねて、ただ単に持ち込んだのではない。日本独自の、江戸時代に培われた、あるいはもつと前から培われていた地域の技術としっかりと融合しているということこそをスチュアート・スミス先生は高く評価されたわけです。世界遺産になるということは、それがより明確になることだと思っています。

齊彬の集成館事業の精神は、「思無邪」の精神です。自分の藩だけよくなればよいということではなくて、海外情勢をかんがみ、日本国というものを見据えて、海外と対等にお付き合いができるような、強く豊かな国をつくらなければならぬ。そのために自ら産業を興さなければいけないのだということを取り組んだ事業が集成館というわけです。

また、それぞれの施設は単独で存在するのではなくて、一つのまちという形の中でどう整備



明治5年 磯地区集成館

望月 地方は、自分のことだけを考えるだけではやはりだめだということですね。

花田清輝は、ルネッサンスというのは何かというと、楕円であると。楕円というのは二つの焦点があつて、それが自在に動いている。一つは国という思想ですね、それでも一つは地域の思想。二つの楕円を核にしてダイナミックに動かしていくという思想が、世界的な集成館事業を可能にした背景にあると思うんです。だから、われわれは、これから産業資産そのものを考えることについても、その資産だけではなくて、これが持つて

いる国際性とか、国全体に関する意味ということを考えながら、全体性を追求していく視点が大事だなと大変思いました。

薩摩は海洋国家だと言われますが、そういう大きな開かれた視点が、むしろ内部の力を逆に高めることになるので、産業観光を通して、それは団塊のシニアもそうだけれども、特に子どもたちに、そういう高い志を持ってもらうことが大事なことです。

島津 それは非常に大事ですね。われわれも、「みんなの集成館」という取り組みで、子どもたちを対象にして集成館事業を学んでもらう。そこから、子どもたちの視点で集成館事業を本当に純粹に見てもらって、その中から疑問に思ったことをいろいろ自分たちで調べながら、自分たちで発見して、それを自分たちのものとしてもらうという取り組みを行っています。

たとえば、集成館のある場所は、なぜ海のご近くにつくつたのかとか、子どもたちが疑問に思って、それを自分たちでいろいろ調べながら解決していく。ものを運ぶのに便利だったのではないとか、すぐ裏に山があつて、その山からいろいろなものを得ることができたのではないだろうかとか、そういうような発想を子どもたちなりに広げて、いろいろ考えて見つけ出していく。それがまた子どもたちの理解につながって、それを現代のものを考えることに大きく生かしていってもらえると思います。

望月 子どもたちが暮らしている地域には、必ず歴史的な遺産とか産業というのがあはずね。日本のどこでも、集成館ほどではないにしても、やはり必ずあつたわけだから、子どもたちが、自分の地域を通して先人の知恵に触れる。先人の知恵に触れるというのは、農業も、漁業も、近代産業も、みんな同じことなんです。産業というものは大きな知恵の固まりとしてあるから、集成館の子どものそういう事業を通して、自分たちの地域を学んでいく「子ども地域学会」みたいなものを広げられたらいいですね。

島津 そうですね。各地でそういうものがあつたら、本当に前向きな形で広がりますね。

望月 二一世紀の次の技術は、やはり環境技術だと思えます。九州がそれを世界的なベースメントとして支えているということになると、どうも九州全体を一つの産業モデルとして歴史的に見ていくことができるのではないかと。これを見ることによって、アジアのいろいろな国が次に打つ手を考える。これからの産業観光は、過去を見ながら、むしろ未来というものを照射していくことが大きなことです。

これから、地域社会も、地域人材をどうやって育てて残していくのかというのを、私は、薩摩が持っているルネッサンスからぜひ学んでもらいたいと強く思ったわけです。

今日は大変ありがとうございました。

(抄録・平成二〇年八月二日／構成・編集部)



歴史資産を活かす技術

土木学会歴史的構造物保全技術連合小委員会(CHEW)の活動



北河 大次郎

文化庁文化財部参事官付
文化財調査官

活用の輪の広がりとそれを支える技術

歴史的な資産を、地域の活性化に役立てようとする活動は、近年確実に増加している。この増加の傾向は、資産と認められるもの自体の数や多様化のみならず、活用を担う団体や住民参加型の企画の数や多様化などからも窺い知ることができる。例えば、土木関係では、文化財や学会が遺産として選定する構造物の数の増加に加え、全国近代化遺産活用連絡協議会による十月二〇日の「近代化遺産全国一斉公開事業」、名橋日本橋保存会が主催する「全国こども橋サミット」、産業観光に関わる企画などに見られるように、多彩な活動が全国各地で展開しており、それらは多かれ少なかれ地域の活性化に貢献している。

活用の輪が広がること自体、大変喜ばしいことだと思う。いやむしろ、土木遺産のような公共性の高い施設については、いくら高い歴史的価値を有し

ていても、それを取り巻く人々がその良さを認め、地域の新たな資産として再認識することなくして、残していくことは難しいだろう。

ただし、こうした活動は、資産を適切に次世代に受け継ぐための必要条件ではあっても、十分条件ではない。当然のことながら、歴史遺産を物理的存在として残していくためには、こうした活動に加えてモノとして適切に維持・管理する技術が不可欠となる。そもそも、資産が健全な状態になれば、活用もままならないだろう。

また、活用自体に関しても、現代的な要求を満たしながら、後世によりよく受け継いでいくためのマネージメント技術とでもいうべきものがあるのかもしれない。地域活性化や観光振興の名の下に、集客機能を高めようと過度の修景や安全対策をとることで、結果として構造物を痛めてしまい、本来の価値を減じるような事態になっては本末

転倒である。社会の一時的な盛り上がりで感嘆されて、歴史的な資産を「消費」してしまうことがないよう、節度ある措置を持続的に講じていくことが求められよう。

課題解決に向けた新たな組織づくり

しかし、現状においては、歴史的構造物の維持・保存工事の実施に必要な技術の蓄積や、事業の拠り所となるべき計画論の研究は十分ではない。歴史的資産に対する社会的な注目が高まる現状においても、技術的な基盤はまだ確立されておらず、実際、構造物の歴史的価値に鑑みた適切な保全措置をとっている例もまだ数少ない。

こうした現状認識に基づき、土木学会に新たに組織されたのが歴史的構造物保全技術連合小委員会である。この小委員会は、平成十八年一月に立ち上げられた設立準備会での検討を踏まえ、平成十八年度に設立されたもので、平成二〇年度末までを一応の活動期間と

している。

設立準備会においては、課題が歴史、技術、計画などの複数の研究分野に關し、対象物も河川、道路、鉄道、港湾など多岐にわたることを踏まえて、関係分野が連携して調査研究に取り組み体制を整えることが必要と考え、従来土木遺産について取り組んできた土木史研究委員会だけでなく、土木学会の構造系・計画系の委員会を連合して小委員会を組織することとした(図1)。

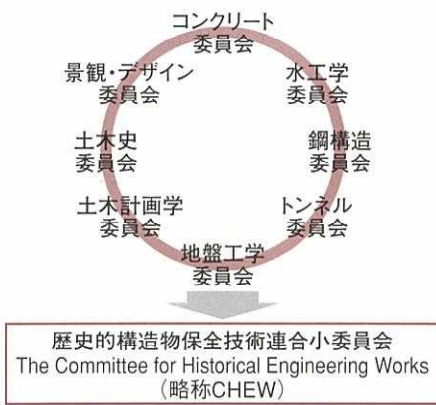
また、すでに歴史遺産の保全に多くの蓄積がある建築分野からも委員の参加を得ている。

当初は、専門を異にする技術者と研究者が問題意識を共有し、現状の課題をより明確に把握するために、各委員の発表と討議からなる勉強会を年六回開催した。その後、土木学会の重点研究課題の助成を受けて第一の研究成果をとりまとめ(内容については<http://www.jsce.or.jp/committee/jyuten/>)

index.shtmlを参照のこと）、さらに雑誌への連載を通して委員会活動と歴史的建造物の保全に関する普及啓発活動を展開している(表1)。現在は、成果を最終的に書籍として取りまとめるための作業を行っている。

委員会における検討内容

委員会の掲げる最終的な目標は、歴史的建造物をあたりまえのように次世代へ受け継ぐための技術的環境を整えることにある。建造物の機能の適切な維持管理を図りながら、歴史的価値もさりげなく保持・向上するための技術的対応について考えるというわけである。しかし現状から考えると、この目標の実現は容易なことではない。実際、実現のためには、普及啓発、政策立案、事業の企画・実施・評価などの、構造



〈図1〉CHEWの連携体制

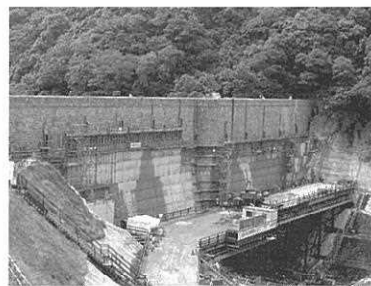
<p>普及啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『CE建設業界』フォトエッセイ連載(平成20年分) ・『土木学会誌』平成19年8月号ミニ特集「土木遺産保全の実務的課題と方策」 <p>研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書「歴史的建造物保全の研究」の刊行(土木学会重点研究課題助成) ・土木学会全国大会における共通セッション、研究討論会の開催 ・書籍「歴史的土木建造物の保全」(仮称)の刊行(予定)
--

〈表1〉CHEWの主な活動

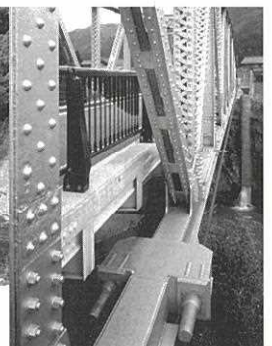
物をめぐる多様で直接的な研究・活動に加え、教育や研究のあり方や技術者の職能の明確化などの根本的な問題にも取り組まなければならない。一朝一夕には進まない。

そもそも維持管理を担う技術者にしてみれば、歴史的建造物の保全と、通常の業務で行う維持管理とは何が違うのかわからなければ、具体的な策を講じることはできない。従来、性能の維持・向上を効率的に行うことだけを考えてきた技術者に、歴史的価値を尊重した管理を急に求めても無理がある。さらに、その価値を考慮することで、直近の工事にかかる費用が増す場合には、それに見合った効果が生み出せているのか、社会が納得できるかたちで提示しなければならない。

そこで、新たに刊行する予定の書籍においては、まず従来の土木分野における維持管理と文化財分野における保全に関する理論的考



〈写真2〉撮影：樋口輝久
布引水源地上流側へコンクリートを打ち増しし、既存躯体を残しながら補強



〈写真1〉撮影：小野吉彦
金名橋：PCケーブルによる下弦材の補強で、既存躯体に対する影響を最小限に抑える

察に、まちづくりと景観形成の観点を加えて、歴史的建造物を保全するための基本的な考え方と手法について提示する。その上で、計画論と設計施工論に分けて、橋梁(写真1)、ダム(写真2)、トンネルなどの建造物や、文化的価値の定量分析、土木デザインなどの主題に則した論考を掲載する予定である。これらは基本的な内容に留まるだろうが、少なくとも今後の土木の各分野における研究の礎となることを目指している。また、これらの基本的内容に対応する国内及び海外の事例を具体的に分析することとしている。このよ

うに歴史的建造物に関する多岐にわたる論点を広く扱いながら、保全に関する考え方、手法又は業務のあり方だけでなく、継承と創造、技術者の職能の変化、技術開発の方向性などの、土木の未来を見据えた議論にも踏み込む予定である。

専門性を超えて

歴史が現代社会につきつける問題は、歴史家だけで解決することはできない。建造物という物理的対象が、そこに存在していればなおさらである。歴史の問題は、文化的・物理的要素が複雑に関わり合う、それぞれ固有のものである。容易には単純化(またはモデル化)できない。ここでは、複雑な多面体をその総体として扱う態度と技術が必要で、ある特定の専門家だけの手には負えない存在なのである。

複雑化する現代社会の問題に対して、土木分野においては専門家間の連携により解決の道を探ろうとする動きが広がっている。土木学会歴史的建造物保全技術連合小委員会の試みも、保全事業の一般化という前記した目的の実現もさることながら、その過程において技術の専門性と総合性のあり方について何かしらの提示できれば良いと思う。

北海道の土木遺産を活かす

土木遺産ツアーのこここころみ

土木遺産の効能

①土木遺産に会いたい

土木遺産。筆者もそうだが、土木遺産に夢中になっている人たちは何が面白くて活動しているのだろう。人それぞれ、その動機があると思うが、中心にある気持ちは、単純に土木遺産に会いたい、そう思う気持ちだと思ふ。仕事が忙しく疲れている時、ふと日常から離れ休みたい、そんなときに訪れて会いたいと思ふ。山を歩きながらの「森林浴」に似たものだろうか。そう、何かしらの癒しの効果が土木遺産にはあると思うのだ。

②土木遺産に出会う心理

その癒しの気分を、もう少し煎じ詰めて考えてみよう。土木遺産を目の前にしたときに何を思うか？私の感じている気持ちは、例えていうなら、物言わぬ大木など地方の「ぬし(主)」に出会ったときに感じる気持ち、それと

似たものだと思う。悠久のときを経て今、目の前に屹立する構造物。これまでに生きてきた自分の人生など、ゆうに

越えてしまう時間において人の営みを支え続けてきた土木物(どぼくぶつ)。自分を超越した時間の流れを思い、一瞬にして日常の世界から非日常の世界に連れ出されてしまう。畏敬の念。

③土木の時間スケール

私たちの土木の世界は、今現在行われている仕事にとどまらない長い時間スケールを持つ。しかし、日々の仕事をどうこなすかに追われる日常では、そんなことはどうでもよくなってしまう。

「あなたが手がけた土木構造物は何十年、何百年と、使われていくんですよ」。簡単に言ってしまうこの言い回しではあるが、この中の「永続することの重大性」を理解するのは容易じゃない。特にまだ自分の仕事を手にしていない学生たちには、このことを実感す

るのは不可能に近いことである。

ここに「土木遺産」である。土木

の持つ永続性を感覚として、直感として理解するのが土木遺産に向かい会った時に沸き上がる気持ちの中にある。この点において土木遺産は、

他では補うことのできない重要な役割を果たす。

土木遺産見学会

①ツアーを考える

さて、土木遺産が素晴らしいことは、自分も含め土木史研究者たちは充分わかっていて。それならこれを、どうやったら人々に知ってもらえるか。一番よいのは遺産の数ヶ所をパッケージン



原口 征人

(社)北海道開発技術センター
主任研究員

第1回土木学会北海道支部選奨土木遺産見学会
— 土木遺産に出会い、一世紀の土木に思いをほめるツアー in 函館 —

土木学会では平成12年(2000年)に選奨土木遺産の認定制度を設け、これまで137件が認定されてきました。そのうちの17件が北海道におきまして土木遺産という認定を受けたにも関わらず、また土木史研究者のあいだにも普及してきていません。そこで今回、土木遺産のさらなるアピールを促すことを目的として、土木学会北海道支部が主催する「土木遺産ツアー」を企画いたしました。

一世紀にわたり作り続けられてきた土木構造物に出会い、当時の設計者の考え方やその後の維持管理等の経緯を知ること、われわれ土木史研究者の思い、誇りや尊敬を再認識し、先人も誇れるツアーです。

学生から社会人、シニアの方まで幅広い年齢層のご参加を期待しています。1日目の夜2日目のみの参加も受け付けます。

○開催日 平成20年 6月11日(月)12:00から、6月12日(火)12:00まで。

○集合場所 1日目 J R函館駅前口前広場(13:00集合) ※バスで移動します
2日目 函館港(9:00集合のち見学開始) ※南電でつなぐ前駅下車

○参加費 2,000円
参加費 4,000円(15日18:30〜【会場 遊覧乗車「砂防の月」】(参加希望者はお申込み)
旅行バック 2,2,900円(JR券【札幌-函館】往復+1泊(シングル)施設定額あり。希望者お申込み)

○行程 (申込み期間 平成20年5月18日)

1日目	13:00	函館駅前集合	集合	函館駅前口前広場	バスに乗車
①	札幌本道	函館本道	明治の道の施設、現在の維持管理		
②	函館市の水道施設群—その1(牧野ダム)	パトレスダム	当時の設計と現在の維持		
③	函館市の水道施設群—その2(尾形配水塔)	配水塔の中の見学、函館の水道計画			
④	函館港改修施設群—その1(函館港改修)	築港の歴史、現代の改修計画			
⑤	函館港改修施設群—その2(函館港改修)	第1号乾ドックを中心とした函館港改修の見学			
⑥	函館港改修施設群—その3(函館港改修)				

○お申し込み先 【函館】北海道開発技術センター(株)北海道支店(函館市内山)
(TEL. 011-223-5740 FAX 011-230-6285)

○お問い合わせ先 札幌法人 土木学会 北海道支部 (札幌市)
(TEL. 011-251-7742 FAX 011-251-7035)

土木学会北海道支部事務局
〒040-0201 函館市 函館ビル5F

土木遺産ツアーのチラシ

グし、ツアーを組んであげることである。

②土木学会北海道支部のこここころみ

平成十九年度土木学会北海道支部(坂本容支部長)では、総務幹事会の肝いりで土木遺産ツアーを実行しようと動き始めた。北海道の土木遺産は全道に散らばり、これまで十七件が選奨されている。これら全てを回るツアーは北海道の広さを考えてもらえれば、



赤松並木 全員でお話を聞くには歩道が狭かった

無理なことは想像していただけたらと思
う。「道北」「道東」「道央」「道南」と
四地区に分けたパッケージングを考え
た。そしてこのうち道南（函館地区）
に絞って実施しようと決まったのが秋。
北海道の冬は早く、翌年春の実行とな
った。

③規模はどれほど？
学会の支部活動でどこまでやるのか、
時期が遅くなり宣伝の期間が取れない
こともあって学会員に宣伝。のちに支
部幹事の中で地元新聞に記事として
取り上げてもらったことで、一般市民
へも募集を拡げた。盛り込んだ工夫と



笹流ダム その偉容に感動する参加者一同

しては、二日間のうち一日のみでも参
加できるようにした点、旅行費用はバ
ス代の分担として二〇〇〇円と安く抑
さえた点である。参加者は土木技術者
を中心として総勢四五名。このうち一
般からの参加が二名あったのが心強か
った。

函館の土木遺産
ここでは実際の土木遺産の紹介と当
日の参加者の様子について記す。この
ようなツアーがもたらす効果について、
考察する一助としていただきたい。



元町配水池 水道創設時の姿をとどめている

①札幌本道 赤松並木
一日目は午後からの行程であり、ツ
アー参加者はJR函館駅に集合、点呼
のちバスで移動となった。まずは「赤
松並木」。北海道を代表するこの並木
は、明治初期の「高速道路」を今にとど
める記念物である。開拓使によるわが
国最初の洋式馬車道「札幌本道」は、
当時の中心地「函館」と新都「札幌」
とを結ぶ一大道路整備であり、明治六
年の完成を機に旧道から移植された赤
松たちが現在の並木になっている。天
然分布の北限を超えて北海道に來た赤
松は、樹齢百年を過ぎた老木となって

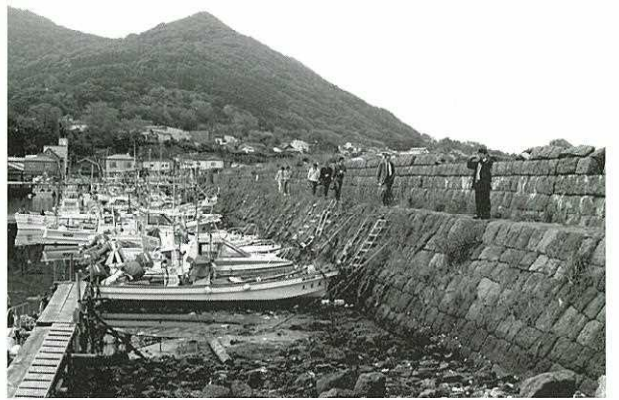
おり、管理者の函館道路事務所ととも
に市民ボランティア団体「赤松街道を
愛する会」が、並木を守る「こも巻き」
やパトロールの活動をしている。現地
では愛する会の会長さんにお願ひし説
明をいただいた。熱心で丁寧なお話を
いただき、最後のお別れでは参加者か
ら拍手がおこった。並木がこのように
見学されたのも初めてだそうで、私た
ちも会長も意気高揚する場面だった。

②函館水道施設群

次に訪れたのは近代水道になり初め
て日本人の手で設計された「函館水道
施設群」である。群、としたのは建造
物が離れているゆえ。山麓で取水し砂
で濾過された水は、水道管で市街地の
下をいったん通過し、反対側の函館山
までサイフォンで送られる。そしてい
ったん「元町配水池」に溜めてから各
戸へと自然流下で送られるのだ。全国
的にも早い水道整備は、開港場として
伝染病の芽を摘むため、また函館の大
火を終焉に導く消火栓のためであった。
設計者は函館の地形を読み、こんな複
雑なシステムとしたのだ。

まず訪れた取水口の「笹流ダム」は
コンクリート構造として珍奇なバット
レスダムで、しかも後の補修でもその

形式が踏襲された由緒あるバットレスである。ダム前の公園に進んでいくと、徐々に迫ってくるダムの圧倒的な存在感と造形美に誰もが息をのむ。この場所ので函館水道局の担当係長が語られたお話は、このダムを設計した技術者の責任感が伝わってくるお話だった。戦後、補修前の笹流ダムの劣化した姿をいつも気にし不安がられ、補修についても逐一、技術的検討をチェックされていたという。一度関わったものには最後まで責任を全うする、そういう技術者魂を喚起させられる秘話に感動を新たにしたい。



函館漁港 石積み防波堤

次に一行はバスで移動して反対側の「元町配水池」へ。ここでも函館市水道局の担当者、まだ二〇代とおぼしきお若い方からご説明をいただいた。よく勉強されている、と参加者（こちらは四〇、五〇代が多い）からも感心しきりだった。

③ 函館港改良施設群

二日目の朝は、市電の終着駅「函館どつく前」電停に近い「函館港改良工事記念碑」に現地集合し、ここからはバスを使わず歩いて港の施設を体感してもらった。それは北海道から出た土木の偉人、広井勇博士の設計したこの改良工事は、防波堤のみならず埋め立てで出現した土地の利用計画もまた、博士の構想によるものだからである。まず小樽港より早く広井が手がけた、興味深い石積み防波堤を見学する。堤体となっている石組みは、もとの場所にあった弁天台場の石を再利用したもので、由緒のあるもの。年期の入った物件を丹念に眺めてしまい、ついつい予定時間をオーバーしてしまった。

ところで、函館漁港は活イカが特産品である。イカを新鮮な状態で水揚げするために、石積み防波堤の外側に最新の新の漁業設備が完成した。この説明に



当時のままの下水 四角いマンホール

所で集合写真を撮り、第一回の土木遺産ツアーは終了した。

参加者へのアンケート調査

土木遺産ツアーの今後を考えるために、今回のツアーから分かった部分を考察してみたい。終了後に参加者へお願いしたアンケートから、いくつかの点をまとめて報告する。

① こんな身近に!?

地元函館からの参加者が語ったのは、昔から施設の存在は知っていたけど土木遺産として見たことはなく、今回のツアーで改めてよく知ることができ感動した、という声だった。我々はその土地にあるのだから地元の人はずっと知ってるだろうと早合点してしまうが、実はそうではない。地元ほど逆に知らないのだ。そうした中で、自分が子供の頃から親しんできた近所の建造物が「遺産」となるのは、函館人のみならず、どの地方でも喜ばしく誇りとなることだろう。遠方の人よりも地元で知ってもらえるツアーが、その土地の土木遺産にとって幸せといえる。

② 技術に感動！人に感動！

今日まで残る遺産である。その事だけで建設当時の技術の高さが実証され

ているようなものである。また、事業を成功へ導いた人物も、これまた実行力、決断力、リーダーとしての素養をもつ大人物で、これにも感動である。人間が実行したプロジェクトだからこそ、知るほどに味わい深いストーリーリーに出会える。そして現地に行っているからこそ見つける自分ならではの着眼点。それが土木という行為の価値をそれぞれに印象づかせることにつながっている。土木史を教室で学ぶのとは違って、現地だからこそ感じる強い感動がツアーにはあるのだ。

③管理者の誇りを刺激するツアー

土木遺産を維持している管理者にとっても、このようなツアーで説明を担当することは、仕事に対する誇りを新たにする良いイベントとなる。今回、説明いただいた担当者はそれぞれ職責も異なりバリエーションに富むものであったが、遺産についてよく調べてきていただき、誠実に対応いただいた点では全く一緒であった。私たちも管理者だからこそ知っている目から鱗の知識や、当時の裏話に感心したり、感動したりした。そんなやりとりから、土木遺産を支える担当者と市民の共通意識がつけられていくのだと思う。

今後の土木遺産ツアーの課題

①パッケージングを考える

アンケートでは「こういったツアーは素晴らしい」「ぜひ続けて欲しい」そのようなお褒めの言葉をいただいた。しかし開催前の参加者募集のときには、人が集まらないのである。一般の人を集めるには、また二工夫必要だし、特に若い人が集まりにくい。なぜだろうか。

ひとつは、我々がまだ宣伝に慣れていないからだと思う。「土木遺産」という名前からして「土木」「堅そう、偉そう、etc.」&「遺産」「古臭い、歴史は苦手、etc.」という

ネガティブイメージである。どう割り引いてみてもマニアックなツアーに見える。私たちの言葉のセンスを磨かなければならないのだが、ひとつよい例を見つけた。地図の旺文社から出た遺産の紹介本『世界に誇る日本の建造物 現代日本を創ったビッグプロジェクト』である。地図帳と写真が詰まった内容もとても良いアイデアで今後の活用が大いに期待されるが、表題が素晴らしいと思った。こういったセンスで打って出たい。

②土木遺産ツアーの意義

土木遺産ツアーはこれまで示してきたように、土木の文化を作り出していくのに役立つものである。市民は生活と土木がながっていることを認識し、地域を形づくった長い歴史の中の一部であると理解する。土木遺産になった、また、これからなっていく建造物を建設し、維持していく土木技術者も、担当する構造物と土木遺産とを重ね合わせて自身の仕事のスタンスを見つめ直し、土木という仕事への誇りを見いだしていくのである。

市民にとっても技術者にとっても、土木に向き合う正しい態度を学んでいく行為が、土木遺産ツアーという現地学習なのである。



旺文社『世界に誇る日本の建造物』

身近な歴史遺産活用の多様性

都市のクロスセクション・近代水道遺産



岡田 昌彰

近畿大学理工学部
社会環境工学科准教授

土木遺産は身近な存在である。それにも関わらず、土木が社会生活を下支える基盤であるが故に、一部の象徴的な塔状構造物や橋梁を除きその多くは市民に強く意識されることなく存在してきた。一方、我々の足元にある郷土あるいは国土の本質を価値として見直す動きが近年各地にある。「地元学」「まちおこし」といったキーワードによって、わがまちに潜在している資源を専門家のみならず市民自らが発掘し、その価値の共有・伝播を意図したまちづくり事業などは枚挙に暇がない。

明快な都市のアイコンを形成する橋梁や、大スケールによって荘厳とある種の崇高さすら漂わずダムなどに比べ、水道というインフラは視覚的には地味な存在と言える。今や世界一の水準を誇る徹底した衛生管理のもと、蛇口を捻れば清潔な水を安定的に得られることは現代の日本人にとって常識を通り越し至極当然の条件ですらあり、その恩恵を日常的に実感することはもはや

難しい。また、水道は取水・浄水・配水という長大な線のネットワークによって形成されるも、その殆どは水道管として地中埋設されており、施設自体が地上で視覚的に景観として体感されることも稀である。文明的生活に最も基本的な「利水」という役割を担うこの施設群をより身近なものとして市民にアピールすることができれば、先人の都市構築にかけた情熱、我々現代人が学ぶべき優れた知恵、あるいは現代に至る重要な役割そのものに身近に触れることができよう。

現役の水道施設を他の用途に利活用することには限界があるが、その副次的な生成空間や既に廃止された施設の巧みな利活用事例は数多く見られる。本稿では、さまざまな水道施設の利活用の現況を概観し、今後の可能性について検討してみたい。

上屋の利活用

近代水道には近代建築さながらの秀逸なデザインの施されているものが多

上屋の利活用



岡山市水道記念館



大阪市水道記念館



桐生市水道資料館



高松市水道資料館

く、瀟洒な外観をもつ旧ポンプ施設や事務所建築などの「上屋」を水道資料館などとして存続させる事例が見られる。大正三年竣工の旧第一配水ポンプ場を保存活用した大阪市水道記念館は代表的で、赤煉瓦と御影石による特徴的な外観を維持しながらも水道史や髷

髷湖・淀川水系の生態系などを最先端の設備によって展示している。このほか、明治三十八年創設当時の動力室・ポンプ室を利用した岡山市水道記念館、浄水場の管理事務所を転用した高松市水道資料館、旧事務所を活用した桐生市の水道資料館などがある。

浄水場、配水地の利活用

安全確保や衛生管理の上から浄水場や配水地が常時開放されることは現実的ではないが、期間ないし時間限定で敷地が開放されているものもある。仙台市の荒巻配水所は大

正十二年に竣工した配水地入口が旧管理事務所とともに登録文化財となっているが、配水地上の空間が「荒巻配水所いこいの広場」として春から秋にかけて一定時間開放されている。また、テニスコートに転用された広島市の旧牛田浄水場や四日市の旧生桑配水地の

浄水場・配水地の活用



旧旧管理事務所



荒巻配水所配水地（仙台市）

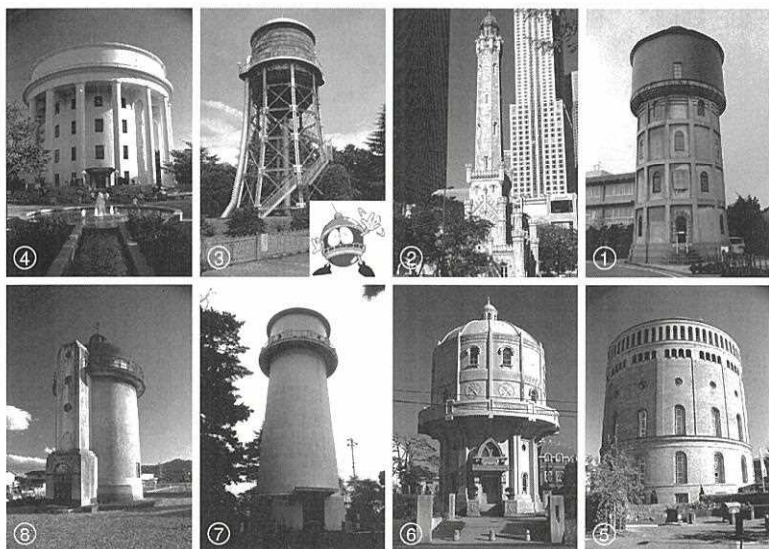


浅香山浄水場（堺市）



旧牛田浄水場（広島市）

配水塔の利活用



①高岡市の清水町配水塔 ②シカゴ Watertower ③前橋市の敷島浄水場配水塔とモチーフキャラクター ④名古屋市の旧稲葉地配水塔 ⑤ドイツ・ケルン市の Hotel Wasserturm ⑥水戸市旧低区配水塔 ⑦新潟市の白根庭園旧配水塔 ⑧本庄市の児玉町旧配水塔

ように、廃止された施設がその特徴を維持したまま運動場などとして活用されるケースも見られる。

また、浄水場内には戦前より桜や法面のツツジが植栽されていることが多く、花見の季節に一般開放されるものもある。堺市の浅香山浄水場では「つつじの通り抜け」が毎春開催されているほか、大阪市の柴島浄水場、盛岡市の米内浄水場、東京の和田堀給水所など花見を媒介とした同様の事例が各地に見られる。浅香山浄水場のツツジは

法面安定を意図して植栽されたとも言われており、広義の土木遺産と捉えることが可能であろう。

配水塔の利活用

配水塔は水道施設の中でも最も明確な景観を形成し、地域のランドマークとして親しまれているものも各地に数多く見られる。昭和六年竣工の旧配水塔を利用した高岡市の清水町配水塔資料館や、米国シカゴの Watertower など、地元の水道史をはじめとする都市史の展示場を兼ねた観光

対象として存続しているものもある。前橋市の敷島浄水場配水塔は同敷地内にある水道資料館のイメージキャラクターの強い愛着が反映されているものといえる。

加えて、用途の大胆な転用によるユニークな活用事例もある。名古屋市旧稲葉地配水塔は内部空間の特徴的な形態を活かした演劇練習館に転用されているほか、インテリアデザイナー

Andre Putman 氏によって給水塔をホテルに転用したドイツ・ケルン市の Hotel Wasserturm がある。

一方、半円状のアーチ窓や丸窓、壁面レリーフを特徴とする水戸市の旧低区配水塔（昭和七年竣工）、新潟市白根庭園内にある旧配水塔、埼玉県の児玉町旧配水塔（昭和六年竣工）などのように、歴史的給水塔をそのまま凍結的に地域のランドマークや公園内のオブジェとして保存する事例も見られる。

水道道の利活用

創設時に水道管の埋設を目的として用地買収された空間においては、管路の上部は管理上構造物の設置が許可されないため、そこは必然的に線的な空間が生成し「道」となる。その後周辺域が宅地化された後もこの空間は保持され、結果的に住宅密集地や農地などを一直線に縦貫する特徴的な道空間が形成される。この道が近隣の住民によって「水道道」と名づけられることも少なくない。

水道道は本来、管理上の便宜を目的として命名されるケースが多い。この段階では水道道は管理者の用いる一般名詞に過ぎないが、この呼称が周辺住民に何らかの形で伝播し「水道道」と

わが国における「水道道」

No.	名称	所在地	a) 施設	b) 竣工年	c) 形状
1	水道道	青森県青森市	横内浄水場一	配水 明治42年	1909 直線
2	水道坂	宮城県石巻市	大街道浄水場一南鯉山配水場	送水 昭和8年	1933 直線
3	水道道路	千葉県佐倉市	印旛沼取水場一柏井浄水場	導水 昭和43年	1968 (直線)
4	水道道路	埼玉県朝霞市～東京都清瀬市	朝霞浄水場一東村山浄水場	導水 昭和39年	1964 (直線)
5	水道道	東京都葛飾区	金町浄水場一	配水 大正15年	1926 直線
6	水道道路	東京都東大和市～武蔵野市	村山貯水池一境浄水場	導水 大正12年	1923 直線
7	水道道路	東京都武蔵野市～杉並区	境浄水場一和田堀給水所	送水 大正12年	1923 直線
8	水道道	東京都杉並区～新宿区	和泉給水所一淀橋浄水場	導水 大正12年	1923 直線
9	水道道路	東京都狛江市～杉並区	砧浄水場一野方配水塔・大谷口配水塔	送水 昭和9年	1934 直線
10	水道道路	東京都羽村市～埼玉県所沢市	羽村堰第3水門一村山貯水池・山口貯水池	導水 大正12年	1923 直線
11	水道道	神奈川県津久井郡～横浜市	青山水源事務所一川井浄水場	導水 明治20年	1887 直線
12	水道道	神奈川県横浜市	川井浄水場一西谷浄水場	導水 明治20年	1887 直線
13	水道道	神奈川県横浜市	西谷浄水場一野毛山配水場	送水 明治20年	1887 直線
14	水道道	神奈川県横浜市	西谷浄水場一鶴見配水塔	送水 昭和9年	1934 (直線)
15	水道道	神奈川県横須賀市	平原水源一逸見浄水場	導水 大正8年	1919 直線
16	水道道	山梨県甲府市	平瀬浄水場一愛宕山(中区)配水池	送水 大正2年	1913 直線
17	水道道	愛知県犬山市～春日井市	犬山取水場一鳥居松沈殿池	導水 昭和8年	1933 直線
18	水道道	愛知県春日井市～名古屋市中区	鳥居松沈殿池一鍋屋上野浄水場	導水 大正3年	1914 直線
19	水道道	愛知県名古屋市中区	鍋屋上野浄水場一東山配水池	送水 大正3年	1914 直線
20	水道みち	愛知県名古屋市中区	東山配水池一	配水 大正3年	1914 直線
21	水道みち	愛知県尾西市～海部郡	朝日取水所一太治浄水場	導水 昭和22年	1947 直線
22	鉄管道路	京都府舞鶴市	桂貯水池一与保呂浄水場	導水 明治34年	1901 直線
23	鉄管道路	京都府舞鶴市	与保呂浄水場一	配水 明治34年	1901 直線
24	水道道	大阪府枚方市～寝屋川市	楠葉取水所一豊野浄水場	導水 昭和43年	1968 (直線)
25	水道みち	大阪府岸和田市	村野浄水場一	送水 昭和44年	1969 (直線)
26	水道筋	兵庫県神戸市	上ヶ原浄水場一奥平野浄水場	導水 大正10年	1921 直線
27	水道道	和歌山県和歌山市	有本水源一真砂浄水場	導水 大正14年	1925 直線
28	水道道	鳥根県松江市	忌部浄水場一床几山配水池	送水 大正7年	1918 直線
29	水道みち	山口県下関市	内日貯水池一高尾浄水場	導水 明治39年	1906 直線

いう特定された固有名詞に変貌する。郊外開発によって都市化した地域などにおいては貴重な小路として特化され、「水道道」は市民交流ないしアクティビティの場としての価値も獲得する。

表のような二九件の「水道道」が全国に確認されている。水道道は郊外の公道未整備の地域に埋設されることにより、導水・送水管部分に多く形成されており、自転車道（多摩湖自転車道、尾張サイクリングロード等）、遊歩道（神明緑道、横浜水道道緑道、大幸緑道、すいどうみ

住宅地・農地・荒地など様々な土地を一直線に貫通する水道道



相模原市麻溝付近



相模原市田名北付近

「名所」としての水道道



布引のハイキングコース



戸祭配水場赤レンガ階段

ち緑道等）、商店街（水道筋商店街）及び一般道路として利用されている。神戸市の水道筋商店街はもともと、大正十年の神戸市水道第一回拡張工事において水道管の埋設された管路用地であり、創設当時に住民の要望により道路として整備されている。同時期に付近に市場が誕生し、その後も周辺の市街化による宅地増加とともに日用品・

その他施設の活用
相模原市北部の水道道沿道に立地する「老人福祉センター 溪松園」は地域シニアの教養向上やサークル活動を目的とした施設であるが、導水勾配の向上を目的に一九三四年に竣工した「大島送水井」を転用したものである。当時、約一〇％も導水能力を向上させた実績があり、横浜水道の歴史上重要な

また、宇都宮市の戸祭配水場へのアクセス用に整備された赤レンガ階段や、歌枕となった自然風景と特徴的な諸施設群を探索する神戸市布引のハイキングコースなど、水道道を観光対象ないし地域資産として活用する事例も見られる。

食料品の需要が高まり、ここを中核として商店街が形成されている。このほかに、「水道道」を一時的にイベント利用するものも見られる。例えば、水源地のある神奈川県津久井地区から横浜港まで、横浜水道道を自転車で行き、水道遺産を見学しながら理解を深めることを目的とした「サイクリングツアー・オン・横浜水道道」や、下関市水道道の「水道みちウォーク」、名古屋市の「水道みちさくらまつり」などがある。

施設であったことは間違いない。一九七二年に老人福祉センターに転用されており、この手のリノベーション建築の嚆矢と位置づけられよう。

また、宇部市の桃山配水計量室は正十二年に竣工し、中心市街地から近い丘の上に立地している。実際は直径五・七mの八角形平面をもっているが、市民からは「六角堂」の愛称で親しまれている。立地地点を通過する道路の

中央部に位

置しており、下方に通ずる道路側からは明快なアイストップが形成されている。

今後の可能性 動態保存対象及び都市の実相の顕在化媒体としての意義

以上、内外における水道施設の利活用事例について概観した。現役施設の恒常的な利活用事例は少ないが、廃止施設については静態保存が主流であり、施設の機能や水道の役割については展示物や関連文献によって学ばせるもの

が多い。一方、英国には水道施設を動態保存する興味深い事例が存在するのでご紹介したい。

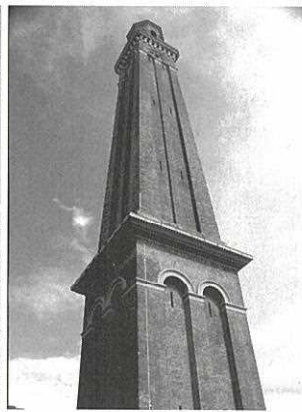
宇部市の桃山配水計量室



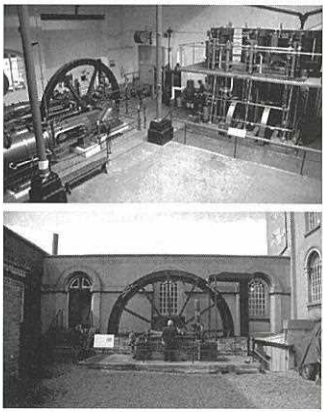
一八一一年に竣工したキュー・ブリッジ揚水施設はロンドンにほど近いブレントフォード地区に位置し、一九四四年に稼働を停止しているが、一九七三年に「The Kew Bridge Engine Trust」なる組織が成立し、ここを水道ミュージアムと

して再生している。週末には実際に蒸気機関がエンジンアによって稼働され、揚水システムを訪問者が直接体感できる工夫がなされている。トラストを背景とした資金による遺産保存のシステムに日英の差があることは否めないが、水道施設はこのような揚水や着水、沈殿といった単純明快な動的要素を伴っているだけに、他の土木遺産に比べ動態保存の意義は大きいと言えるであろう。

もう一点、水道施設のアピールの意義として注目したいのは、水道システムが立地都市の様々な「実相」を明快



ロンドンのキュー・ブリッジ揚水機場



に反映していることである。例えば、桜島を背景に火山灰層と不透水層によって湧水する特徴をもつ鹿児島市水道や、峠を大胆に貫通する水路隧道によって河川取水口と浄水場を結ぶというユニークな導水ルートをもつ新宮市水道、和歌山城跡の標高と都心近傍という物理的な立地特性を最大限に活かした近代配水システムをもつ和歌山市水道など、立地都市の土質や地形、前近代史といった既存の自然・人文地理的特性が水道システムに巧妙に適用されている。即ち、水道史を知ることはその都市の様々な実相を理解する有益な手がかりともなり、さらにこの条件を見事に読み取り水道システムに反映させた先人の知恵に触れることもできるのである。また、呉・横須賀・佐世保・舞鶴といった旧海軍都市や、旭川・宇都宮といった師団の立地する都市において特に優れた水道システムが先進的に整備されていることは、それぞれ旧軍都の都市整備のあり方の歴史を理解する一つの重要な手がかりともなり得るであろう。

水道は、都市の実相を明快に炙り出す「クロスセクション」なのである。

日立市の原点「共楽館」と市民運動



武道館に改修された共楽館の内部



唐破風の正面玄関が印象的な共楽館
(平成11年、国の有形文化財に登録)



共楽館を考える集い代表の森秀男さん(左)
と事務局長の市毛環さん

日立市は、日立製作所の企業城下町とも言われ、工場やビルなどまちの至るところにその証を見ることが出来る。寒村であったこの地を、今日の工業都市に変えたのは、明治三十八年、後に政界にも進出する実業家・久原房之助が興した日立鉾山が原点であった。久原は、同鉾山を開業わずか数年で日本有数の銅山に成長させるとともに、「一家」の理念のもと、従業員やその家族らの福利厚生にも尽力し、大正二年に「本山劇場」、大正六年には「共楽館」の二つの芝居小屋をつくった。本山劇場はすでに取り壊されているが、共楽館は現存し、堂々たるその風格は鉾山

時代の隆盛ぶりを今に伝えている。

ここでは、ものづくりのまち・日立の歴史を見つめてきた共楽館が、今日のまちづくりにとってどう位置づけられているのか。保存・活用に向けた草の根運動を続けているNPO法人「共楽館を考える集い」の取り組みから紹介する。

芝居小屋から武道館、そして現在は

共楽館は、日立鉾山の技師が手掛けたもので、芝居小屋特有の艶めかしさには欠けるものの、いかにも重厚感のある木造建築である。東京・歌舞伎座がモデルといわれ、唐破風が対になった正面玄関などにその趣が感じられる。内部は柱を用いない洋小屋トラス構造となっており、広々とした空間に意匠を凝らした見事な格天井が続いている。一五〇〇人程度が収容でき、当時は回り舞台や花道、二階棧敷席も設けられていた。こけら落としには沢村源之助、市川九團次一行が興行を打ち、大きな話題を呼んだという。歌舞伎の公演ばかりでなく、映画や歌謡ショウ、講演会など多目的に利用され、市民会館も



共楽館を考える集いの事務所を兼ねるアンテナショップ共楽館。地域住民の手作りの品を販売している

ない時代、日立の文化発信基地としての役割を担っていた。

しかし、戦後の映画全盛期を過ぎると、鉾山業の衰退とも相まって、共楽館の利用は極端に減り、昭和四二年に日立市へ寄贈された。翌年、市は武道館への転用を選択し、舞台や棧敷の撤去など大幅な内部改修が行われ、残念ながら芝居小屋としてはその幕を閉じた。それでも、市民の集う場として親しまれてきた共楽館ではあるが、ここに来て火急の問題が発生している。築九〇年を超えた建物は、雨漏りや土台の腐食など激しい老朽化にさらされ、平成十七年の耐震構造調査では「震度六で倒壊の恐れあり」との診断が下された。現在は見学のみ可能で、武道館と

しての使用はもちろんイベント等の開催も禁止されている。

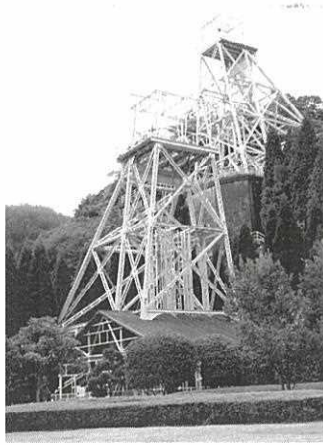
復元から保存、産業遺産へ

平成五年、「共楽館を考える集い」(以下、「考える集い」という)が任意団体として結成された(NPO法人化は平成十六年度)。共楽館の往時を知る市民の愛着は深く、あつという間に一〇〇〇人近い会員が集まったという。事務局長を長く務めている市毛環さんもその一人。「終戦後、ソビエト映画で『石



日立鉱山の歴史が展示されている日鉱記念館

日鉱記念館敷地内にある第1豎坑(下)と第11豎坑



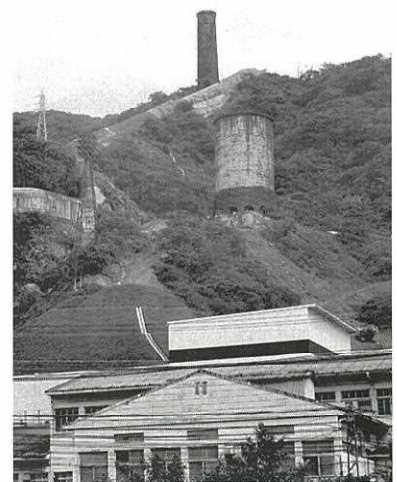
の花」というアニメがあり、それが総天然色なんですよ。世の中にこんなきれいなものがあるのかと強い衝撃を受けました。それからは映画に通い詰めでした」と当時を振り返る。

それぞれの共楽館への郷愁を胸に、当初、考える集いの活動は芝居小屋としての復元が大きなテーマとなった。広報紙や街頭署名などを通して市へ復元を要望する一方、永六輔講演会、弁士による活動写真上映会、マルセ太郎公演をはじめ様々なイベントを行い、芝居小屋としての存在意義を訴えた。また、全国芝居小屋会議に参加して、復元のあり方などを情報交換しながら学んでいった。しかし前記のとおり、使用禁止という事態となり、復元・活用よりも保存が現実問題として浮上したのである。

平成十七年には、とりわけ激しさを増している雨漏り対策のため、商工会議所や文化協会などの協力を得て募金活動も行った。この運動は市内はもとろん県内外にも大きな反響を呼んだが、最低でも一億五〇〇〇万円が必要と試算される本格的修復には、市の予算措置が不可欠である。しかし、その前に今後の利用方法を十分検討する必要が

ある、というのが現段階での市のスタンスのようだ。考える集い代表の森秀男さんは「市を動かすには、市民や議会を納得させる共楽館の再生メニューを用意しなければなりません。そのメニューの一つが、私たちは産業遺産として光をあてることだと考えています」と話す。

平成十九年、経済産業省はまちづくりに寄与する近代化産業遺産として全国三三か所を公表し、「近代日本の重工業化と地域経済の発展を支えた常磐地域の鉱工業関連遺産群」として、日立市の大煙突、日鉱記念館、小平記念館、共楽館がいわき市の産業遺産(常磐炭礦・八基鉱山跡)とともに選ばれた。これを契機に、考える集いでは「いわきヘリテージ・ツーリズム協議会」との交流を深め、地域連携による産業観光についての協議を始めた。また、今回の評価を得たことで、昨年度は共楽館を訪れたツアーが七五件に及び、「共楽館ガイド」の養成にも乗り出している。今後は、日立鉱山を中心とする産業遺産群を一つのストーリーでつなぎ、



工都日立のシンボル・大煙突(建設時155.7m)。平成5年、残念ながら下部3分の1を残して倒壊した

その要として、共楽館を「まちの駅」的な存在にしていきたいということだ。まちづくりは人づくり

日立鉱山の時代、鉱山の給料日にはその給料をねらって「会計市」という市が共楽館界隈に立っていた。考える集いでは、地域おこしの一環として、この会計市を「平成の会計市」と名付けて復活させた。今年で四回目を迎えるが、毎年、中学生にも設営や出店で協力をお願いしているという。そこには、日立発展の原点に触れることで、若者たちに地域への愛着や誇りを育んでほしいとの願いが込められている。現在、考える集いの会員数は高齢化等により六〇〇名を切った。これから活動を広げ、発展させていくためにも、次代を担う人づくりはまちづくりとともに大きな課題である。(取材・高梨弘丞)

ものづくりの面白さを伝える「たたら」の復活

NPO法人「ものづくり教育たたら」で 指導員を養成中

「たたら」研究のきっかけ

一九七九年、東京工業大学で教鞭を執る永田和宏先生は、学園祭で食べものの屋台が並ぶだけの状況を常々憂いていた。科学技術系の東工大らしい出しものはないものかと、夏休みを利用して、学生を連れて冶金工学に関連する刀鍛冶の現場を訪れることにした。そこは日本刀の関の孫六で有名な、岐阜県関市の金子孫六さんの刀鍛冶の仕事場である。ここで日本刀の製造過程を見学しようとしたのだ。ところが、夏は暑く湿度が多いので刀鍛冶は休業中。話だけでもと、原料の鉄について尋ねると、自分でつくっているという。そこで実際にやってみようかと、一時間ほどで砂鉄から鉄をつくってしまったのだ。これを見て永田先生は「びっくりした。わたしは冶金の専門家ですから、鉄は溶鉱炉とか転炉とか大工場で作るものと思っていた。なのに小さな炉で、砂鉄と炭でこんなに簡単にできてしまうなんて、非常に不思議に思った」。

大学に戻り学生を集めて、さっそく自分で「たたら」をやってみた。しかし何をどうやっても鉄はできなかったのだ。専門の鉄冶金学の製鉄法の知識

を総動員しても、ノロ（スラグ）しか出てこない。この年の大学祭から毎年「たたら」に挑戦するが失敗に次ぐ失敗。五年後に再び金子さんのところへコツを教えてもらいに行った。金子さんは「自分には教えられない」といい、実験的な「たたら」を自分で行っている刀匠の大野兼正さんを紹介してくれた。この大野さんとの出会いが、独自の「永田たたら」を生み出す契機となる。最初にノロを溶かすというコツをおさえれば、鉄ができたのだ。

こうして開発されたユニークな「永田たたら」は、簡単に鉄を製造することができる。トタンと耐火レンガを基本素材にして、送風機には園芸用のブローアを使い、つなぎのホースは洗濯機用の排水ホースを代用させる。すべて身近なホームセンターで調達できるものばかりだ。原料の木炭や砂鉄も、労力と時間を惜しまなければ自力で入手可能だ。

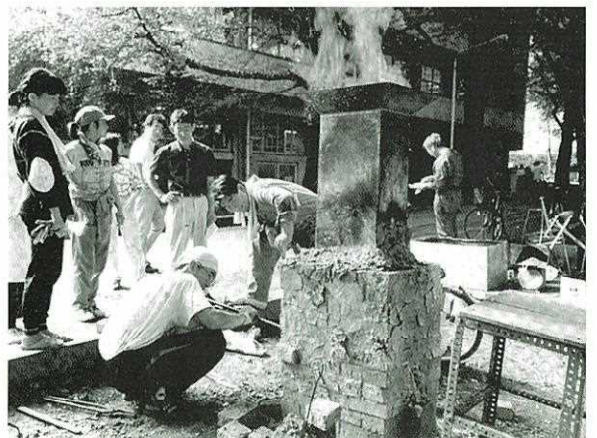
「たたら」の広がり

こうして鉄ができるようになる、それを元に包丁やナイフをつくるようになった。学生たちと「東工大ナイフクラブ」をつくり、二カ月に一度「たたら」を学内で操業し、原料の鉄をつ



恒例となっている東工大キャンパス内で行われている「たたら」の操業風景（2000年撮影）

保谷市立東小学校で行った「たたら」操業の実習。女子児童が木炭を炉に投入している（1994年撮影）



くる。そのうちに学内に知れわたり、学外までうわさが飛んだ。その中には小学校の先生がいたり、刀鍛冶がいたり、考古学者など、いろいろな分野の人が集まった。交流が始まり、そのつながりで小学校で体験学習をするようになった。最初は東京都の保谷市立東小学校の五、六年生を対象にした授業だった。担当の先生は千葉県の犬吠埼の海岸まで行き、砂鉄を採取。それを原料に鉄をつくった。その後、年四、五回の割合で、小学校に限らず、中学校、高校、大学へ「出前たたら」を行った。

さらに「たたら」好きの人たちとの交流を深めていくと、全国に「たたら」に興味をもつ人がいることが分かってきた。そこで、一九九六年から「たたらサミット」を開催するようになる。隔年のサミットだが、今年は北九州で第七回を数え、毎回二〇〇人近い参加者を集めている。ここでは、全国からさまざまな形の炉を持ち寄り、いっせいにたたら製鉄を行っているという。また、日本鉄鋼連盟では鉄鋼業のPRに「たたら」を取り上げ、科学技術館と共に毎年体験イベントを実施している。さらには一般の人だけでなく、大手製鉄会社の新日鉄では、鉄づくりの

原点として、毎年十二月の鉄の記念日に社員教育の一環として「たたら製鉄」を実施する。今では社員に加え、市民も巻き込んで鉄づくりを楽しんでいる。

指導者養成組織の立ち上げ

本業の現代製鉄法の研究のかたわら、「たたら」に取り組んでいる永田先生だが、さすがに時間のやりくりが難しくなる。そこで、自分の代わりに「たたら」を指導できる人がいればいいなあと考えた。「たたら」を通して、多彩な人とのつながりも生まれていた。「永田たたら」の指導者を育てたいと昨年の年賀状で、長年たたらを通して交流してきた新日鉄の石井隆昭さんに伝えると、さっそく組織づくりを開始。製鉄関連の広範な人脈をもつ石井さんは、

昨年二月にメンバーになってもらえそうな人と実際の「たたら」操業を見て、何度も会議を重ね四月には組織活動原案を作成、五月には書類を揃えてNPO法人審査を申請するという早業であった。思いついてから一年足らずで、昨年九月にNPO法人「ものづくり教育たたら」が発足した。活動の柱は、「たたら学校」を開催し

て、ものづくり活動の指導者を養成すること。理事長の永田先生が講師となり、たたらで鉄をつくる実技を三回、たたら製鉄の基礎知識や子どもや一般の人たちに分かりやすく伝える教授法の講義を三回行う。これを修了すると初級指導者となる。その後インターンシップ期間として、永田先生について実際の授業をサポートし、経験を積んでひとり立ちする予定だ。

現在は、月に一回のペースで実技講義が開かれている。会員は今のところ個人が三五名。団体会員は七社で、大手の製鉄会社が名を連ねる。会社をあげて、「たたら」製鉄というものづくりの意義を共有し、協力しあっている。こうした企業の理解も、NPO設立の大きな力になっていた。

「永田たたら」で鉄をつくる

九月のとある日曜日、朝九時より実技講習が始まった。通算三回目の実技だが、実習生は三回目の人もあるし、初めての人もいる。作業に慣れてきた人が、新しい人に説明しながら黙々と作業が進められた。まず、車のない駐車場にトタン板を敷き、コンクリートブロック、耐火レンガを運び、手順よ



2006年に行われた、東京北の丸公園の科学技術館のイベント「ものづくり体験—たたら—」に参加した子どもたち。中央の子がもっている黒い塊ができた鉄。当時の安倍晋三首相が訪れ、イベントを見学した(写真提供/科学技術館)



NPO法人ものづくり教育たたらパンフレット。随時会員を募集中。詳しくはホームページ参照のこと。
<http://www.tataru.or.jp>

今年11月、北九州で行われる「第7回たたらサミット」のチラシ。主催はNPO法人ものづくり教育たたらで、3日間「たたら」三昧のスケジュールとなっている

く積み上げて、高さ1m、幅・奥行きが五〇〜六〇cmの小さな炉をつくる。鉄板を折り曲げ針金で止めたシャフトを上のにせる。ここに木炭を詰めて火を入れ炉内の火が上部まで達したら、拳くらいの大きさに割った木炭と砂鉄を交互に入れる。木炭と砂鉄は一〇分おきに投入。木炭の燃焼で炉内の温度は高いところで二四〇〇度にもなり、砂鉄が木炭の間を通り抜けるうちに還元され炭を吸って溶け、鉄の固まりであるケラができる。実習では砂鉄三〇kg、木炭七〇kgを使用し、約五時間の燃焼を経て最終的に七kg近いケラがとれた。

作業中、永田先生は「そこにレンガを置くと、小学生はドカンと落としたりやうよ」とか、「その作業、子どもには素手でやってもらって」と話したり、「ここでは、こんな質問がでるから、どう答える?」と聞いたり、子どもたちの動きをシミュレーション。うまく鉄をつくるだけでなく、授業を意識した指導を行っていた。

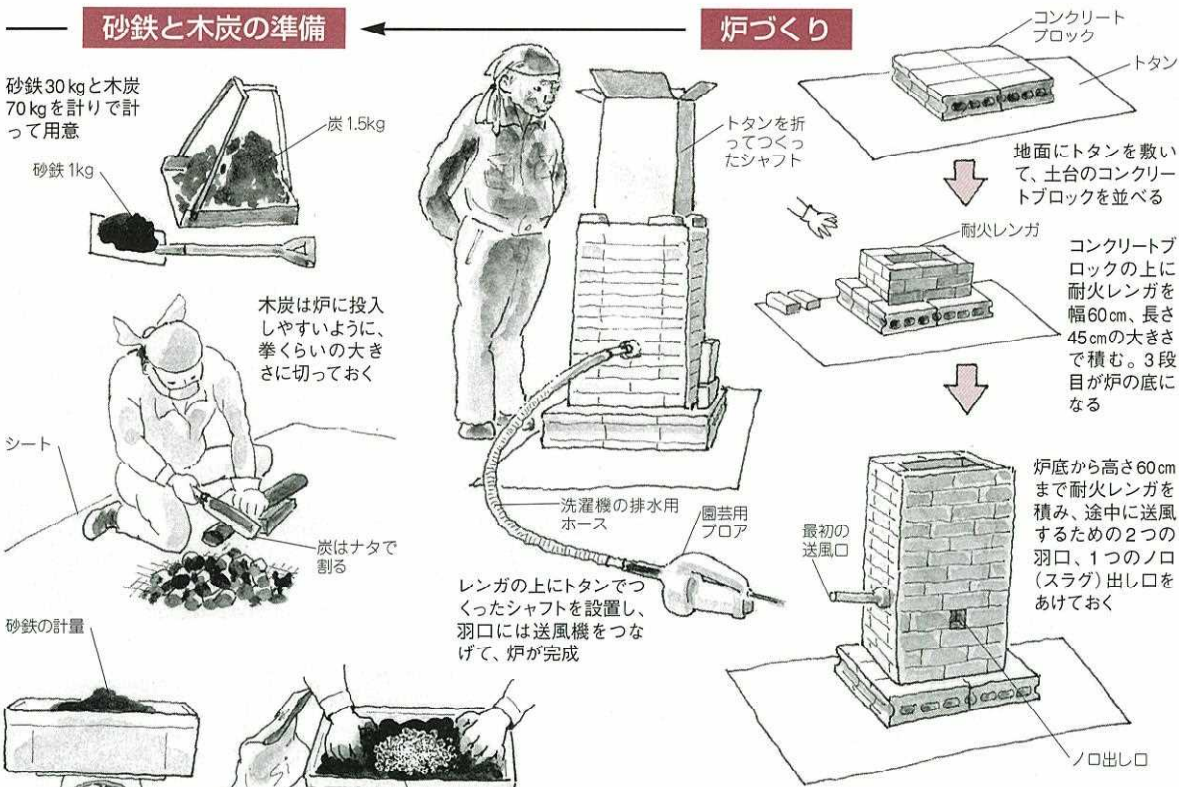
永田先生と知り合ってもう四年という実技三回目の深澤和生さんは「もう何度も見たり手伝ったりしているが、毎回鉄の出来具合が違ってますよ」と楽しそうに話した。以前、科学技術館

のイベントに行った時の子どもたちがとても喜んだのが印象に残り、「これはやらなくてはいけないと思った」という。製鉄会社に勤める深澤さんにとっても、このたたらは、鉄の再認識につながったという。

初参加の松田大昭さんは製鉄会社で長年現場に携わってきたベテラン技術者だ。「職場の高炉とはぜんぜん違うので戸惑った」と話すが、作業ではテキパキと動き、講義でもいろいろと質問し、積極的にかかわる姿が印象的だった。

「たたら」を通したものづくり

「たたら」は日本古来の製鉄技術で、江戸時代の中ごろに技術は完成した。しかし鉄の生産性は低く、明治以降に入ってきた西洋近代の技術に圧倒される。現代の溶鉱炉も基本的に西洋の考えでつくられている。大量生産が可能な反面、この作り方では高温のため不純物が入りやすく、また赤錆がやすい。ところがたたらでつくった包丁は錆びがほとんどでない。そして、日本刀の材料は「たたら」でつくった鋼しか使われない。こうしたことは、だれも研究してこなかったし、科学的にも未解明の部分なのだ。「たたら」は過去

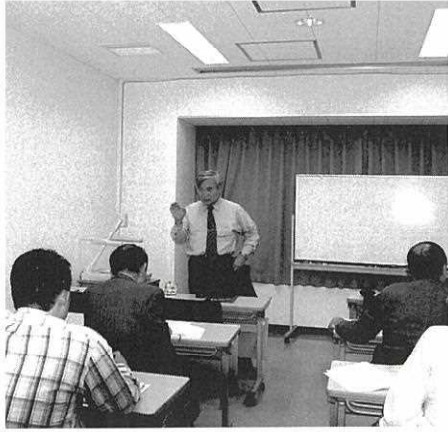


「永田たたら」実技実習の行程

たたら学校のメインイベントである「たたら採業」実習は、休日の丸1日を使って行われた。朝9時から始まり、夕方5時まで、何もなかった駐車場に炉がつくられ、火を入れて鉄をつくり、また何も無い駐車場に戻して解散した。

の遺物で、現代では産業としては成立せず、この技術を科学的に研究する人はいなかった。しかし、こんなにスゴイ鉄がなぜできるのか。これを大量生産するにはどうしたらいいかと考えたのが、永田先生だったのだ。

乞われて小学校から高校、大学まで、永田先生が行った授業は二〇〇回以上。子どもたちは最初怪訝そうな顔をするが、実際の作業が始まると、興味津々の表情に変わっていく。作業が進むほどに、どんどん引き込まれていき、最後ケラ出しの作業になると歓声を上げる。こんな反応にはあまり関係がない。「火を使うことに、人本来の血が騒ぐのではないか」というのが永田先生の見方だ。小学生に分かるように説明するのが一番難しいというが、難解なことばや概念でも、きっちり書いてに説明すれば、けっこう分かって



今年10月初めに行われた「たたら学校」の講義。内容は製鉄の原理として、現代の溶鉱炉とたたらの違い、たたら製鉄の特色など、専門用語と化学式を交えながら分かりやすく解説した

いて、子どもたちの理解力に驚くこともよくあるという。

「たたら」製鉄の体験学習がふつうの理科教育と違うのは、特定の現象を理解するだけに止まらないことだ。つまり、すべてお膳立てされた実験では、物質や現象などの仕組みや構造を理解するだけで、思考が広がらないというのだ。

ところが「たたら」では、実際に身近にあるものを使って、鉄を取り出すという目的をもつ。その目的を達するためいろいろな考えが生まれる。しかも、砂鉄も木炭も、地域地域で微妙に違うし、操業する日の温度、湿度、風向きなど条件も変化する。加えて高温の火を使うので危険もあるし、炭の燃える匂いと色、鉄の溶ける音など、五感をフルに使って楽しむことができるのだ。人の生活になくしてはならない鉄。しかし、その製造・生産過程は日常からひどく遠いものになってしまった。「たたら」操業を目の当たりにして、こんなに簡単に鉄がつくれるとはと驚嘆した。そのことを知るだけでも、「たたら」は一見の価値がある。

取材：西山麻夕美（フリーライター）
イラスト：河合睦子



った。

しかし、明暦の大火で本所・深川が新市街地の建設地になったことから、江戸市中との連絡路として両国橋が架けられることになり、大火の翌々年の万治二（一六五九）年に完成した。架橋の場所は現在の両国橋よりも二〇mほど下流であった。

江戸の橋には幕府直轄の橋と、町人が建設し維持管理する町橋とがある。幕府直轄には架けられる場所により、二種類の維持管理の形態があった。ひとつは城の内外の濠に架したもので、幕府の費用で修繕維持管理され、作事奉行が担当した。下乗橋・大手橋・和田倉橋・一ツ橋・鍛冶橋・数寄屋橋・呉服橋・常盤橋・筋違橋（現・万世橋・浅草橋など、四〇〜五〇橋があった。

幕府直轄のもうひとつは、町々に架けられた橋で、町奉行が担当。架橋修繕を用達商人が請け負ったことから、「御入用橋」といった。両国橋はこれに該当し、新大橋・永代橋・大川橋（後の吾妻橋）・日本橋・江戸橋・京橋・汐留橋・霊岸橋・湊橋・高橋などの二二〇余である。

しかし、幕府の財政が悪化すると橋の維持が困難になり、元文元（一七三

六）年両国橋、永代橋、新大橋、日本橋、京橋など主要道路の御入用橋を町人の定請負制として出費を抑えた。永代橋は普請料の名目で渡橋銭（一文）を徴収。延享元（一七四四）年には、町橋となった新大橋も渡橋銭（二銭）をとるようになった。

文化六（一八〇九）年には菱垣廻船問屋十組が永代橋、新大橋、大川橋の架橋・修復を永久に引き受けるという三橋会所が設立されたが、文化三（一八一九）年に廃止。橋の維持管理の困難さが窺われる。

民間によって町屋に架けられた町橋には、「組合持」と「一手持」の二種類があった。組合持というのは、組合



東日本橋側から見た両国橋。現在地に移設されたのは明治37（1904）年のことだ



両国橋上から見た東日本橋側。ここから左側20mほど下流に旧両国橋があった

橋の管理と橋番人

をつくって維持管理した橋である。組合は数ヶ町で組織するものや武家同士のもの、武家と町の合同組織、これに寺社が加わるものなどがあり、新橋・親父橋などがこれに当たる。一手持は武家・寺社・町がそれぞれに独自に所有する橋で、大部分が大名屋敷に沿った堀川に架けられ、費用は大名が負担した。伊達家の仙台橋、水戸家の船河原橋などがその例だ。

江戸の橋の取り締まりは、町奉行所の定橋掛が担当し、本所・深川の橋は本所見廻りの支配下に属した。幕府は道路と同じように橋の維持管理・取り

締まりを厳しく行った。橋の上や橋詰に商人や乞食、牛馬が留まることを禁止。「御入用橋は一ヶ月に二回雨が降った時に洗い」「橋上に塵芥が溜まると早く朽ちるからよく掃除せよ」「月二回同心を検分に廻し、粗末にしたら咎を申し付ける」という触や法令を出した。

橋の普請には莫大な費用を要するため、幕府は橋の維持管理上、大川（隅田川の浅草から下流部の別称）に架かる両国橋・永代橋・新大橋・大川橋（吾妻橋）について、荷物を積んだ車の通行を禁止。享保十四（一七二九）年には、「町々で御入用橋の掃除を掃除人足の橋番人に委託しているため、掃除が行届きになる」と指摘。町の名主は巡見して、番人を指図するよう申し渡している。一般の町屋に架けられた町橋には、このような禁令は出ていなかったようだ。しかし橋完成の当初は、釘などがゆるまないように、数日間荷車の通行を禁止。享保十一（一七二六）年には、荷車の積荷の量を制限しようとするこもあった。

御入用橋の掃除人足の番人（通称番太郎）が詰める「橋番屋」は、一般には橋の両側か片側の橋詰に設置された。橋番人は、主として掃除などの保守管



葛西紀巳子

「かさい・きみこ」アメリニティ&カラープランナー。
〔有〕色彩環境計画室代表。人間の生理や心理に基づいた色彩を研究し、住宅や景観、公共空間など人間環境に調和した色彩計画の実践を行っている。内外のまちなちの色彩調査やシンポジウム等で活躍中。

社寺のある都会の風景

最近引越したこの辺り、なんだか神社が多い。銀杏岡八幡神社。須賀神社。榊神社。もう少し行けば、鳥越神社などと、駅から仕事場までほんの数分のところに、いろいろな神社がある。わずか三〇〇〜四〇〇mの範囲内で、これだけ目につくのだから、きつとまだ気付かずにいる神社があるに違いない。神様のオアシスのようなところである。

さすがにそうなると、信仰心の薄い私も気になるもので、近くを通るときなどは、足を止め、手を合わせたりもする。とはいえ、大抵の場合が「苦しいときのなんとやら」で、きつと神様も苦虫を噛みつぶしたようなお顔をされているに違いない。そうだとしても、環境によって行動が変化するのだから、場の力は重要なのだ。

都会の社寺

ところで、神社の前を通るたびに思うのは「都会の社寺はなんとも窮屈そうだなあ」ということ。両隣のビルに、どんと狭まれ見下ろされ、肩身を縮めていらつしやる。だから、両手を広げるかのごとく、鳥居の両端を隣地まで伸ばすのだけれど、せいぜいそこまで

の間口が精一杯で、その両隣には高いビルやマンションが、わんさか建っていく。子どもの頃、神輿が家の前を通るとき、「二階から神様を見下ろしてはいけません」と注意されたけれど、今の世の中、たとえ相手が神様でも「そんなことを気にしていちゃあ、やってられない」といったところだろうか。

それでも、地面の上に鳥居の場所を確保しているだけでも幸いで、先日、久しぶりに出かけたまちでは小さなお社が消えていた。そこは、地元のお年寄りのコミュニケーションの場にもなっていたところで、いつの間にやら建設されたマンションの屋上に移されていたのである。もちろん、人々から見下ろされることはなくなったものの、地元の人々の拠りどころにもなっていた場所だけに、さぞ、神様もお嘆きのことに違いない。

建築に関わる五行思想

このように、神社や仏閣がますます都市の生活から切り離されていけば、生活内での信仰が薄れてしまうのも当然のこと。だから儀式の手順やお作法も全く身につくこともなく、その場に行くとおろ、もたもたすることもしばしばだ。

けれど、建築や土木の現場に立ち合おうと、「地鎮祭」やら開店時には神棚の「入魂式」やらと、縁起を担ぐ習慣もいまだ生きていて、これだって、思い出したように行えば「苦しい時の神だのみ」に違いない、現代人のいかにもゲンキンなところである。

少し前からブームにもなっている「風水」だって、今では占いや占いがなくなったが、本来は、古代中国の陰陽五行思想の考え方に基づいたものであり、もとを正せば、中国の家相書『造宮宅経』の教えである。

それによると「人宅左に流水あり、これを蒼龍という。右に長道



銀杏岡八幡神社 看板がにぎやかな路地の奥。日が当たらず、かわいそう。



須賀神社 両隣のビルに挟まれ、身を縮めているよう。樹木がこんもりと覆い気持ちがいい。



富岡八幡宮 八幡さまと一緒に、背景のビルディングにも手を合わせてしまう。



深川不動堂（2008年撮影） さすがに、それを隠しました。それでも脇から、高速道路が見えますが…。



深川不動堂（1997年撮影） お不動さんの上空を高速道路がびゅんびゅん走っていてこれでいいのかしら？と思っていたら…

あり、これを白虎という。前に汚地あり、これを朱雀という。後ろに丘陵あり、これを玄武という。すなわちこれを、最貴の地とす」というもので、東に青龍、西に白虎、南は朱雀、北は玄武と四神を据え、それが正しく向き合うと地相学的に大吉だといふのである。これらは、建築分野の先人たちの知恵を集めた統計学でもあり、一概に、非科学的だともいえないさそうだ。

平安京も江戸もこれに基づいて、つくられたといふことで、それぞれ鬼門にあたる場所に、京都では比叡山延暦寺を、江戸には寛永寺を裏鬼門の守護として据えている。

日枝神社も神田明神も、芝大門の増上寺も、そうした風水に基づいて建立されたとき、五色不動（目白、目赤、目黒、目青、目黄）も江戸を守るために置かれたのだという。これらの色は五行思想の青、赤（朱）、白、黒（玄）、黄と関連し、順に、東、南、西、北、中央と方向を示しており、先の青龍、朱雀、白虎、玄武の四神にも対応する。すべては木・火・土・金・水の五つの要素から成り立つとする、自然調和の宇宙思想に基づいたもの。

徳川家が泰平に江戸時代を長く治めたのは、こうした風水にもとづいた基盤づくりがあったからだとも言われている。そうした緻密な計算によって建設していった江戸の地形を、むやみにいじるのは、当時の人々の心情からすると、無知ゆえの恐ろしき行為かもしれない。だから、美しい歴史的風景をそれ単体だけでなく、取り囲む背景をも維持しようと努力してきた地域は、図らずも思想的な意図までも一緒に保持したことになるだろう。

先日、土地の趣を醸し出している鎮守の杜が、開発のエリアにかり、存命の危機にあるという地区を訪れた。氏子たちが代々守ってきたそれを、なぜその場に在るかという意味さえ慮ることもなく、土地から切り裂いていいのだろうか。信仰心薄き私も気が気ではない。

石川県珠洲市の農業土木遺産



本文・後藤 治 (工学院大学建築都市デザイン学科教授)

二村 悟 (工学院大学後藤研究室客員研究員)

写真・小野吉彦

〈右・カラー〉

塩田の跡は水田となって活きつづけている。奥の左側に見えるのがハザ

左・塩田に海水をまく角花豊氏。奥に見えるのが塩焼小屋

下・水田を取り巻く、頑強なハザ。一般に見られるものとは比較にならない大きさである

はじめに

能登半島の先端に位置する珠洲市には、伝統的な塩づくりの製法が残る。この地の伝統的な製法は、「揚浜式製塩」(以下、「揚浜式」という。)といい、現在その技術は角花豊氏ただ一人に継承され、国指定重要無形民俗文化財となっている。

今回筆者は、角花氏を取材するため、この地を訪れた。そして、取材をすすめるうちに、珠洲市には揚浜式の塩田の他にも様々な農業土木遺産や全国的にも珍しい産業遺産があることを知った。そこで今回は、製塩に関わる土木遺産とともに、これらの遺産を紹介する。

能登の揚浜式

揚浜式製塩は、かつて能登半島の北側沿岸部一帯に見られ

た。けれども、昭和三十三年の第三次臨時塩業措置法を契機に徐々に消滅し、角花豊氏の父・故菊太郎氏が継承したものとみとなったという。

揚浜式は、日本でもっとも古いとされる製塩方法である。塩田に海水をまき、その砂を集めてる過し、濃縮された海水を塩焼小屋の釜で煮つめて作る製塩方法である。角花氏の塩田にも、茅で葺いた塩焼き小屋が建っている。

揚浜式の塩田跡と水田のハザ

現在、製塩に使用していた塩田は、縁を築いた石積み跡の一部が見られるのみで、多くは水田となっている。塩田には、海水の浸透を防ぐために、水をまく砂の下に二〇〜三〇cmの厚さの粘土層がつくられていた。このため、塩田を水田に転用することは比較的容易だった。

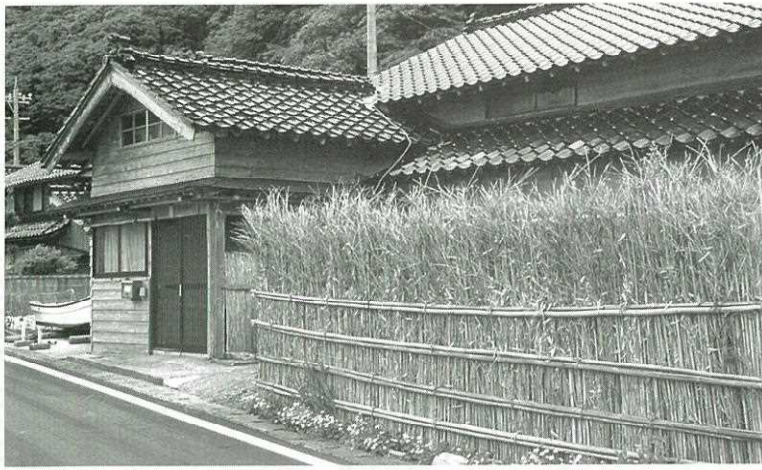
この結果、水田の地形と区画は、塩田のそれを継承することになった。能登半島沿岸部の道路沿いに広がる水田は、現在の珠洲市の景観となっているが、これは塩田の面影を十分に残したものといえるのである。

その水田に欠かせないのが「ハザ」である。ハザは、稲ワラを天日に干す仮設物である。

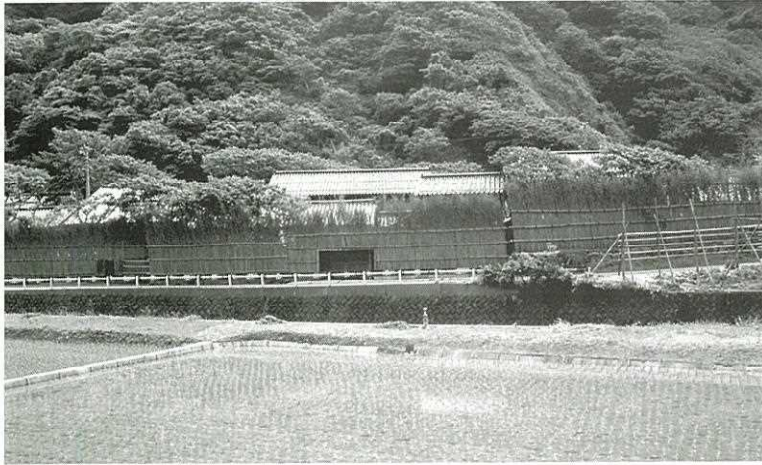


全国で一般によく目にする稲ワラ用の仮設物は、丸太や竹を合掌に組み合わせ、交差する部分に横架材を置くだけの簡易なものである。

けれども、能登のハザはそれとは比較にならない頑丈なものである。太い丸太を組み合わせ、高さ二mを超えており、水田の周囲にそびえ立っている。柱は掘立柱で、柱穴の周囲に太いくさびを何本も打ち込む。柱には、太い竹や丸太の横架材を四〜六段渡し、その柱を丸太のバットレスやロープを結んで固定している。



左・住宅や庭を保護する間垣



左下・観光地ともなっている輪島市の間垣

下・塩焼小屋の釜には、かつて珪藻土が使われていた

ハザが頑強につくられる理由は単純明快で、能登の沿岸部に吹く強い浜風に耐えるためである。

間垣(マガキ)

沿岸部の強風といえ、能登には特徴的な仮設物の「間垣」がある。強風から水田を守るのがハザなら、住宅や庭を保護する仮設物が間垣である。

間垣の支柱とする丸太や竹は、基本的に一間ごとに立て、柱の間に高さ四〜五

mの竹を立てる。立てた竹の両側から横架材の竹で挟み込む。近年では、竹ではない材料を使うこともある。

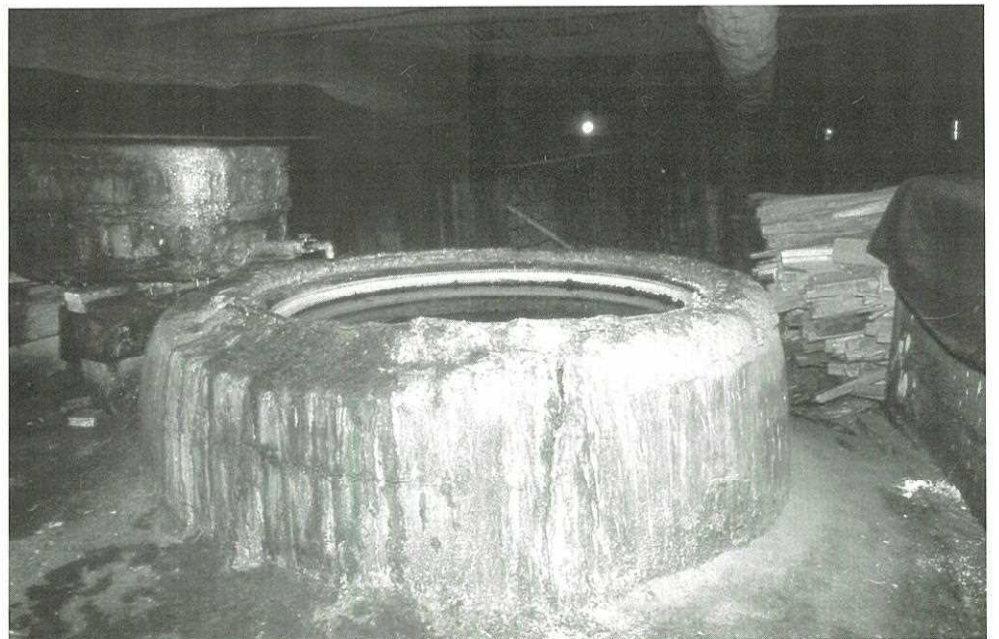
間垣は、冬場は凍てつく風を受け止めるだけでなく、雪囲いの役割も果たす。夏場は、西日を遮る役割も果たす。

珪藻土

ところで、製塩の時にろ過した海水を煮詰めるために使う塩焼小屋の釜には、この地方に特有の珪藻土が伝統的に使用されていた。

珠洲市で珪藻土の採掘が産業として成立したのは、江戸末期から明治期にかけてのことである。現在、珪藻土を使った商品としては、珪藻土を壁面から正方形に削り出し、彫り込んで作る七輪がもっとも有名である。

七輪用の珪藻土の採掘方法は、横穴を掘って、壁面に格子状に切り込みを入れ、削り出していく。現在は、横穴掘りの二か所、露天掘りの一か所の計三か所で採

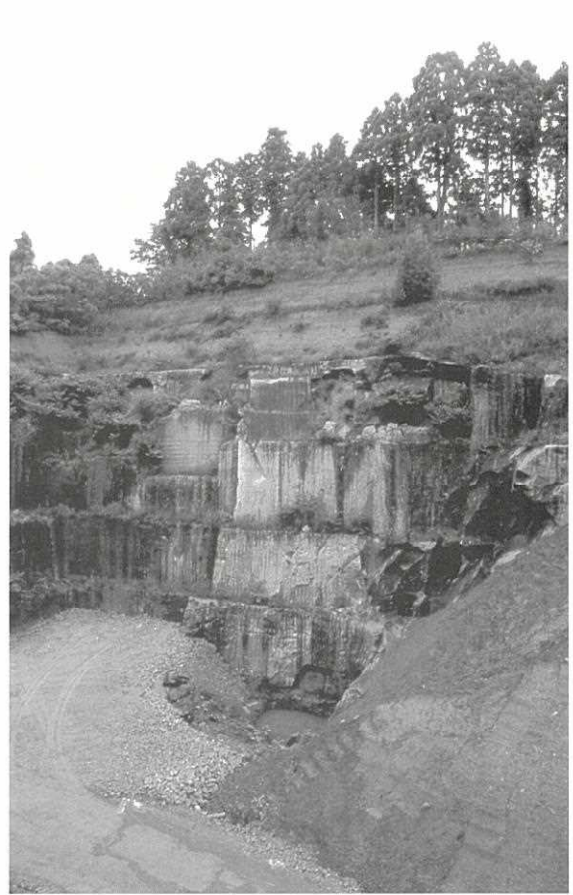


掘が行われている。

珪藻土の採掘は、かつては町の至る所で行われていたという。現在もその採掘跡がいくつも残されている。珪藻土は、普通の山や崖からも採取ができた。そのため、農家の裏にある山や崖にも採掘跡



- 右・珪藻土の露天掘り
- 上・珪藻土から七輪をつくる加工場
- 左・正方形に切り出した珪藻土を削り出して七輪に加工する
- 下・民家の脇に残る珪藻土の掘削のための横穴。珠州市では至るところに見られる



が残されている。そうした採掘跡は、いまでは農作業の道具や農作物の貯蔵に使われており、産業遺産である土木施設を農業用に転用した形になっている。

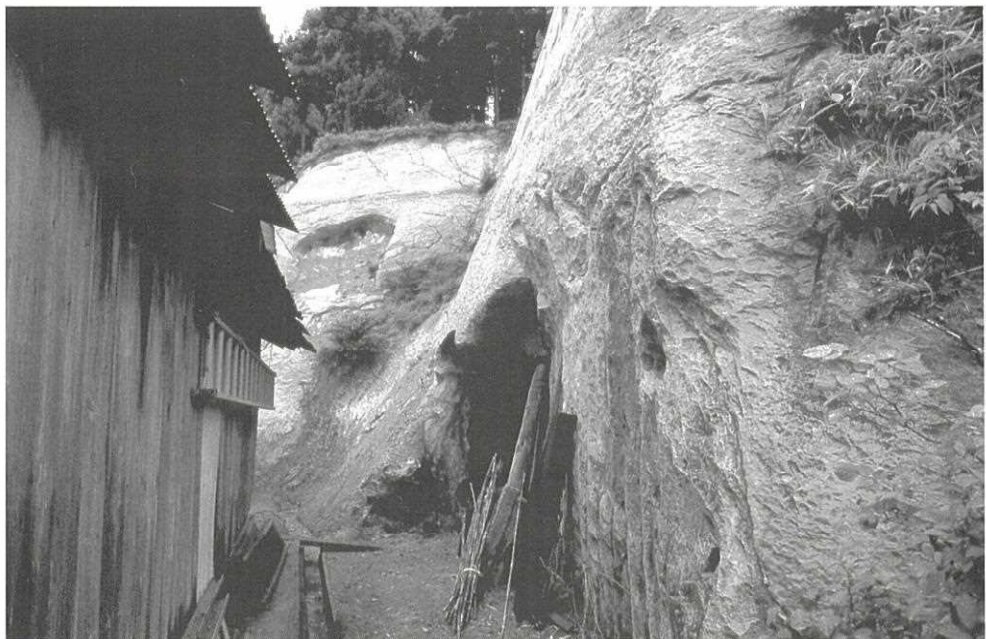
むすび

昭和三十三年以降風前の灯火であった能登の製塩は、細々とはあるが、現在も産業として続いている。珪藻土を使った七輪づくりもまた、伝統産業としての地位を失っていない。珠州市の農業土木遺産を見ると、同じように全国各地の身近なところに、まだまだ我々の知らない興味深い魅力的な農業土木遺産がたくさん眠っているのではないかと想像される。

そんな農業土木遺産をご存知の方は、編集部または工学院大学後藤治研究室まで、ぜひご一報いただきたい。

【参考文献】

日吉芳朗・本浄高治・中西孝・加賀藩にゆかりのある史跡と産物、化学と教育第三九



卷第三号、日本化学会、一九九一
井上充夫・中島一夫・日本の伝統的製塩業
建築について、日本建築学会論文報告集第
二四九号、一九七六・十一
亀井望・大沢・上大沢の間垣の現状、金沢
大学文化人類学研究室調査実習報告書二一、
四三〜五四頁、二〇〇七・三・三一

消えない水害の記憶

秋田県田沢湖生保内の人たちの取り組みおほない

丸井 英一

NPO法人新河相学堂 理事

頻発する水害

この原稿を書いている今、NHKテレビが昨日（八月二八日）降った東海地方と関東の記録的豪雨を特別番組で報じていて、インタビュウを受けた岡崎市の被災者が「ゲリラ的に降った」と答えている。今夏の度重なる記録的豪雨で「ゲリラ豪雨」は、すでに一般の人に認知された用語になりつつあるのか。もし、クイズ番組で次の言葉と結びつく自然現象とはと問う、「記録的」、「集中的」、「過去最大」、「ゲリラ」と順にヒントを出せば「豪雨」という答えが容易に返ってくるに違いない。それほど今夏は、これらの言葉を冠した見出しの新聞記事やテレビニュースが流れることが多かった。

「ゲリラ豪雨」だけでなく、阪神淡路大震災後「活断層」、「液状化」が一

般の人に認知され、先の岩手・宮城内陸地震では「土石流」や「土砂ダム・天然ダム」という言葉も知られるようになった。災害に関わる「土木用語」が一般の人に浸透し、その現象が理解できるということは、防災の観点からは重要であるが、一方で悲しむべき事である。なぜなら、浸透、認識されるのは、その前に大きな災害が起こり、連日のように報道されるためで、そこには「被災者」がいるからである。

本稿では、秋田県仙北市田沢湖で起こった今という「ゲリラ豪雨」のように、予期せず急に降り出した記録的な激しい雨で、この町を流れる「生保内川」が破堤して起こった昭和三五年八月三日の「田沢湖水害」について書く。

水害がもたらす傷の深さを、五〇年近くたつても心に残る被災者の「消えない水害の記憶」を辿ることによって

伝えたい。さらに、すでに高齢化したその被災者たちが水害の悲惨さを次世代に伝え、風化させず、二度とこの地域に犠牲者を出さないための教訓にしよう、私もささやかながらお手伝いさせてもらっている地元のNPOと共に取り組んでいる活動の一端を紹介する。

田沢湖水害

「フジオ シス スゲカエレ」、昭和三五年八月三日十九時頃、この春に地元の生保内小学校の一年生になったばかりの末弟の藤夫さんが水害の犠牲になったことを、同じくこの春、高校を出た浅利昭男さんは、就職した建設会社の名古屋の現場で知らされる。

浅利さんは、眠れないまま翌朝（四日）を迎え、着の身着のままに名古屋を発って、故郷の田沢湖に向かった。今なら、名古屋から東海道新幹線、東

京から秋田新幹線の「こまち」に乗れば、五時間ほどで「田沢湖」に着くが、当時は新幹線がない。

逸る思いはあつても途中の「福島」で一泊するしかなかった。福島駅近くで散髪し、やっと身を整え、翌朝（五日）早く、奥羽本線で大曲まで行き、乗り換えるはずの生保内線が水害で架線下の土砂が崩れ不通になっていたため、ハイヤーで生家のある田沢湖町生保内の沼田地区を目指した。

しかし、県道も六橋が流され、土砂崩れも九箇所あったため、生家のある沼田地区は孤立していたので、あとは



水害で倒壊した家々と立ち尽くす被災者

歩いた。水は既にほとんど引いていて、近づくにつれ、生家も近所の家も流され、大量の泥と流木に埋まった無残な故郷の姿がはっきりと見え、その光景は今も脳裏に残っているという。

友達と生保内川の脇にある製材所の敷地を通って、川沿いの畑の芋を失敬して、川辺でその芋を焼いて食べ、泳ぎ、潜り、ヤマメやカジカをとって遊んだ生保内川での幼い思い出は、幻であったかのように思えたそうである。

八月三日の十五時～十八時の三時間で総降雨量四一〇mm、最大時間雨量一四〇mmを超えたと田沢湖町史に記されている。理科年表にも「一九六〇・八・二～三 大雨(前線) 東北北部～北海道 死者二名 不明九名」とある。

浅利さんの生家があった沼田地区が氾濫して大蛇と化した濁流の直撃を受け、十三名の死者と二名の犠牲者(県内犠牲者のすべて)を出し、秋田県の水害史で歴史的災害とも言える人的被害が、三〇軒にも満たないこの小さな地区で起こった。

地元の図書館にファイルして保管されている昭和三五年八月五日の北浦新報の「生保内川の眼を覆う惨状」とい

う記事を読むと、この「田沢湖水害」で被災した人の悲しみが伝わる。その一部を以下に記す。

「……沼田付近の住民は、生保内川に設けられている堤防に安心していたが、瞬間の急増に堤防の遙か上流が決壊して津波のような水が直径一米もあろうと思われる大木等と諸共に押し寄せて来たのが四時頃であったという。アツという間に生保内川の橋が流され、水は沼田二帯を暴れ狂って本多久米蔵さんの家を一瞬の間に濁流に巻き込んでしまったという。気の毒な金子さん、消防団員である金子重太郎さんは、急激な増水に危険を感じたので、付近一帯に避難するよう呼号してまわり歩いているさ中、山のような波が押し寄せてきて、三女シゲ子(十七)、二男昭市(十五)の二人がいた金子さんの家を濁流に流しこんでしまったという。シゲ子さんと昭市君は、濁流の中で、漸く柳の枝につかまって、助けを求める声金子さんに届いたけれども、すでに水は金子さんの脚下ですら胸を越す深さになっており、物凄く流れのためにも一歩も近づくことが出来ず、濁流と流水の上を遠く、近く聞こえてくる二児の声に施す術もなく刻々と時を過す

中、二人の姿も声も濁流の中に消えて行ったという。「あの二人の声が耳の底にこびりついて」と金子さんが眼をうるませて愛児達の姿を追い求めている姿は、人々の涙をそそっていた。…」

消えない水害の記憶

郷に着いて程なく、浅利さんは父から、母親と中学一年生の妹が流され、行方がわからないことを知らされる。小学校に上がったばかりで、真新しいランドセルを背負って楽しそうに学校に通ったであろう幼い弟の死を知らされ、その姿を浮かべながら二日を掛けて帰った郷で、再び思いもよらない深い悲しみを味わうことになる。その数日後、お母さんは四曲下流の玉川との合流部付近で発見されたが既に亡くなっていた。妹さんは、今も不明のままである。

浅利さんが幼い時、川に遊びに行くのに通り抜けた製材所は、高田博さん(今年二月、七七歳で亡くなった)が経営していた。堤防を突き破った濁流は、製材所に渦高く積み上げたオガクズの上で分流して、高田さんの家と家族は救われた。当時、高田さんは二九歳の若い青年で、先の金子さんと同様

に消防団員として流された人の救助や捜索に明け暮れた。

高田さんにとって犠牲となった十五人は、皆、近在の顔見知りである。会えばいつも笑顔で挨拶してくれた十歳にも満たない子どもや夢多き十代の少年少女合わせて六名、希望にもえる二〇代の青年三名、幼い子を持つ母親が四名も含まれている。まだ若く、これから楽しい将来もあったであろう人たちが、予期せぬ一瞬の水害で「命」と「未来」を失ったことを、高田さんはお会いするたびに悔しそうに私に話していた。その表情には、「なぜ助けることができなかったのか」との思いが滲み出ている。

今春、高田さんの仏前に手を合わせ、そのことを奥さんとご長男にお話すると、「父は、あの水害のことがいつも心にあつたようです」とご長男が答えられた。高田さんと浅利さんは、生保内川のほとりにある「田沢湖水害碑」のまわりを自費できれいに整備し、毎年、初夏に破堤した川沿いの草刈りやゴミの清掃を沼田地区の人たちの先頭に立って行ってきた。この川をいつもきれいに保ちたいという思いと、犠牲になつた人への「鎮魂」を願ったことで

あろうと思う。

沼田でお会いし、話をお伺いした九〇歳を超えたご婦人も、八〇歳を超えた男性も皆、当時の状況の細かいところまで生々しく記憶していた。流されたり、壊されたりした家の再建のため、昭和三五年のことであるから、豊かになりつつあったとは言え、当時の日本はまだ貧しかった。そんな時代に、悲しみを乗り越え、生活を再建する苦勞は並大抵ではなかったはずである。にもかかわらず、できるなら忘れてしまいたい「悲惨な水害の記憶と記録」



生保内川のほとりにある「田沢湖水害碑」

を誰もが、忘れ去らせず、後世に何とかして伝えたいという。

消えていく水害の記録

水害で不通になった旧国鉄生保内線は、JR東日本田沢湖線となって、今は秋田新幹線「こまち」が走る。流された木橋の生保内川橋は、コンクリート橋になった。水害や土砂災害に備えて堤防は高くされ、上流には砂防ダムも整備された。

当時の水害を物語るものは、今は、現場には何も残されていない。敢えて探すならば、古びて苔むし、骨材がむき出しになって、繁茂する河畔の木々に埋もれた災害復旧で施工された十数基のコンクリート水制と、最近、沼田地区の人が水害で流されずに残った松に「慰霊の松」と名づけて立てた案内板があるのみである。

まとまった水害の記録は、図書館に保管されている新聞記事のファイルと町史、そして地元の大沢写真館の主な撮った二〇〇枚を超す写真ネガと写真集だけである。

大沢さんは、八月三日の午後、昼間にも拘わらず急に夜のように暗くなり、激しく雨が降り出したので、何が起

こる」と不吉な予感がして、カメラを持って外に飛び出した。そして、見る見る水かさが増す町の様子を写真に収めていた。大沢さんの予感は当たって、生保内川が破堤し、津波のように水が押し寄せ、町に大きな被害が出た。その時、大沢さんが必死になって撮りまくった沼田地区の被災状況の写真が、当時の様子を今も生々しく伝える。八月三日からの連日の新聞記事も被災状況だけでなく、家族が犠牲になった被災者の心情を伝えていて、私は、読んでいて思わず涙した。

貴重な水害の記録も誰の目にも触れなければ、無きに等しいし、使われることが無ければ、そのうち、散逸してほんとうに無くなってしまふこともある。むしろ、事あるごとに使われ、人の目に触れてこそ記録は、大切に保管されて残るし、そのことによって、この町に起こった歴史的水害をいつまでも風化させずに済むことにもなる。

「田沢湖水害」慰霊祭

国土交通省湯沢河川国道事務所が、大暗渠砂防えん堤建設事業を行っている生保内川を「癒しの溪流づくり」の対象河川とした。



癒しの溪流イベント（イワナをつかむ親子）

これは健常者だけでなく、日頃は施設で過ごすことが多い車椅子の高齢者や障害者、あるいは、幼い子どもや知的障害のある人にも安全に安心して水辺に親しみ、「五感」で自然を感じとれる「癒し空間」として活用する試みで、昨年三月に亡くなった清水浩志郎・秋田大学名誉教授の発想によるものである。

平成十五年から地元の人たちと本格的な意見交換がされた。平成十七年には「生保内川癒しの溪流づくり実行委員会」が地元の有志で立ち上げられ（昨年三月にNPO法人「癒しの溪流・里・

まちネット」に発展)、子どもや高齢者、近在の介護老人保健施設の入所者が健常な人と共に過ごし、交流するイベントを年三回実施してきた。

この実行委員会やNPOの主要メンバーとして活躍してきたのが、先の高田さんや浅利さんをはじめとする沼田地区の人たちである。水害があつても、ふるさとの川として生保内川への愛着は強く、平成十七年の秋、高田さんと沼田地区の人たちで、川のほとりの少し高いところに「百日紅(サルズベリ)の植樹が行われ、高田さん手づくりの木製ベンチがいくつか据えられている。

私が「なぜ、百日紅を植えるのですか？桜のほうが、みんな喜ぶと思いませんか？」と高田さんに問うと「桜はすぐに散ってしまう。百日紅は夏に咲き、紅いきれいな花が百日も咲いていく」と答えた。その百日紅は、まだ花を付けるほどには育っていないが、高田さんはきつと、「水害のあった盛夏の八月三日に紅い花を咲かせて、十五の魂を慰めてくれ」という水害犠牲者への鎮魂の思いを込めたに違いない。高田さんの遺志を継いでいる浅利さんが私に「博さんは、病気になる前この二年、水害碑の周りを整備するな

ど、生保内川のことを何でそんなに急ぐのかと思うくらいにいろいろやったからね」というのを聞いて、そう思った。

今年、水害のあった八月三日の午後三時から「生保内川癒しの溪流」の活動の一環として、NPO主催で「田沢湖水害慰霊祭」を行った。慰霊祭は、水害碑を今の位置に移設した平成九年以来である。二年後の平成二二年に「水害から五〇年」を迎えるから、それまでに「水害の記憶や記録」を文章や映像で残し、風化させないために様々な取り組みをするにしても、まずは「慰霊



今夏の慰霊祭（お坊さんの右が浅利さん、左が大沢さん）

祭」から始めようと考えたからである。

七月の半ば、沼田地区の人たちと趣意書を作り、賛同・参加を呼びかけ、掛かる経費の調達をするやら準備は慌しかつた。しかし、三七人も人が「慰霊祭」に参列してくれ、四時からの「水害を振り返る懇親会」にもその多くが参加してくれた。

水害時の写真を見て当時のことを振り返り、熱心に語りあっている参加者の姿に、私と浅利さんは、改めて「慰霊祭」の意義を確信した。

田沢湖水害から五〇年に向けて (あとがきにかえて)

癒しの溪流・生保内川は小さな川である。水害は、田沢湖町の広範に及んだが、多くの犠牲者を出した沼田地区は小さな集落である。

二年後の平成二二年に「昭和三五年田沢湖水害から五〇年慰霊祭」を行うため、地元NPOと沼田の人たちが動き出した。犠牲になった人の家族や関係者が背負い続けたもの、犠牲になつたそれぞれの「命」の重さと意味を地域の若い人たちに伝え、水害の怖さを再認識し、二度と再び犠牲者を出さない町にするための取り組みが、今から

始まる。

今年の十月十九日(日)にNPOが主催で「田沢湖水害をテーマとした」市民フォーラム」を行い、水害写真と新聞記事の展示、被災者の体験談で市民に防災の大切さを伝える予定である。

今夏、頻発している豪雨と水害は、都会でも山間地でも、限定的でさほど広くない地区で同時多発している。生保内川、沼田地区で起こったことは、これからどこでも起こりえることであるようにも思える。仙北市田沢湖生保内だけのこれからの取り組みは、仙北市民だけに止まらず、広く全国に発信する必要があるのかも知れない。



「まるい・えいいち」

一九五二年大阪府生まれ。

神戸大学土木工学科卒業。

技術士(建設部門)お

よ(総合監理部門)。NPO法人新河相学堂理事。建設コンサルタントに従事する傍ら、市民やNPOと協働した川を活かした地域づくり、伝統的河川工法を用いた台湾での河川整備の技術支援や講演活動を行っている。主な著書に「E.P.S.工法」(共著)理工図書、「土木と社会」(共著)山海堂がある。

既存集積を活用した 中心市街地の再生



佐々木 正

(財) 国土技術研究センター
情報・企画部 上席主任研究員

空き店舗を市役所に再生

筆者の郷里は人口十万人級の地方都市だ。この夏休みにも帰省したのだが、高校時代まで親しんだ中心商店街の姿はなく、一方で最近開発された高速道路のインター近くの区画整理地区では、雨後のタケノコという表現のごとく、大規模ショッピングセンターが一気に建ち並んで、帰省するたびに、その変わりように驚いている。郊外のこんな

光景はどここの地方都市でも見られることだろう。

こうしたなか今春、大きな出来事があった。駅前立地していた唯一の地元百貨店が、郊外に客足を取られて撤退することになったのだが、この空き店舗を市が無償譲渡を受け、改修して市役所にするというのだ。

現在の市役所は老朽化しており、市町村合併により本庁舎としては非常に手狭なので、合併特例債を活用して郊

外移転が具体化されるのではないかと思われていた矢先のことだ。財政状況も厳しいなかで、空き店舗を市役所に再利用できるのならば、中心市街地のためにもなり、一石二鳥かもしれない。そこで、今回の「縮小時代」における地域づくりの発想や手法は、中心市街地での既存ストックの活用による都市機能立地について考えてみたい。

空き店舗を公共施設に再生

商業施設が撤退した跡の空き店舗を改修して再利用した事例は全国にいくつもあるので、ご存知の読者も多いことと思う。

代表例は、長野市の「もんぜんぶら座」だ。ダイエー長野店が郊外移転したことにより発生した空き店舗ビルを、長野市が取得し、改修したものである。

スーパーだった内装に必要最小限の改修の手を入れて、一階には都心居住を支える食品館、二・三階は子供広場や市民活動の拠点施設、四階は長野市消費生活センター等の公的機関の事務所、五・八階にはNTT東日本のコールセンターが入居している。

筆者が昨年夏に訪問した際にいただいたデータによると、平成十五年六月



空き店舗を活用した交流施設「もんぜんぶら座」
(筆者撮影)

のオープンから十九年八月まで、累計三〇万人(二ヶ月あたり六・七万人)の利用者がある。また、会議室や市民ギャラリー等を合わせた施設全体の平均稼働率は六〇〜七〇%となっており、中心市街地における市民交流に寄与している。

このように市民に利用されている背景には様々な工夫が施されている。公益施設部分は行政財産、テナント部分は普通財産として管理運営を行っていること、食品館は、長野商工会議所や地元商店街などが出資したTMO、「株式会社まちづくり長野」が運営しており、しかも、大手スーパーからマネージャーをヘッドハンティングして食品

館の運営を委ねていること。もんぜん
 ぷら座の活用について、市民による外
 部評価を実施しており、その評価報告
 書は毎年度、市役所ホームページで公
 開されていることなどだ。

介護対応型マンションに再生

空き店舗コンバージョンを民間が手
 がけた事例もある。空き店舗を介護対
 応型マンションにコンバージョンを行
 った栃木県佐野市の悠楓園（ゆうふう
 えん）である。平成八年に商業施設が
 撤退し、十一年まで空き店舗となっ
 ていたが、医療法人が買い取って再生し
 たものである。

コンバージョンにあたっては、もと
 もと窓の少ない商業ビルであることか
 ら、介護対応型マンションに作り変え
 るために、壁面を大幅に除去し、窓や
 ベランダ等を設置したり、各戸に水回
 りを配する、バリアフリーを施すなど
 の改修を行った。

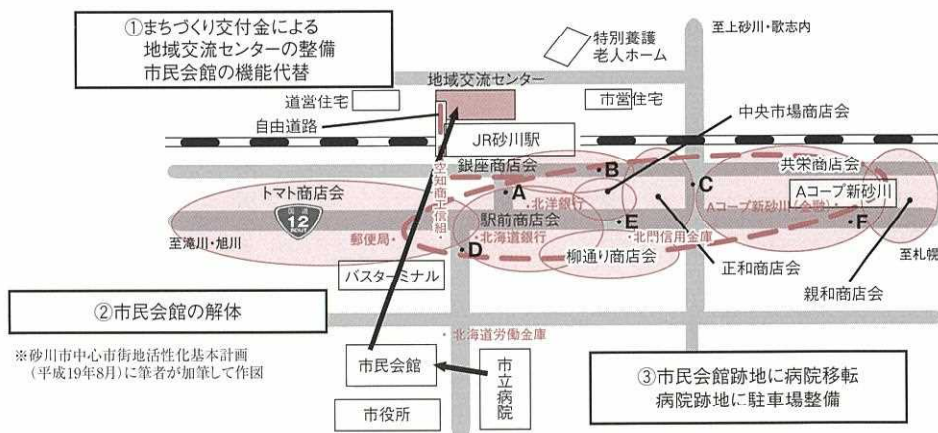
このような再生が実現できたのは、
 法人関係者の福祉に対する問題意識も
 働いているようだが、佐野駅から徒歩
 二〜三分の例幣使街道沿いという、中
 心市街地の好立地にあり、自動車社会
 によって衰退しているとはいえず、歩い

て行けるところに市役所、図書館、銀
 行、スーパー、病院等がまだ残ってい
 る、そうした中心市街地のメリットが
 多分に考慮されているようだ。

まちづくり支援制度を活用して公共施設を集約、病院の建て替えを実現

市役所や病院等が中心市街地から郊
 外に移転する理由として、敷地が手狭
 で現建て替えができないということ
 がある。それを、公共施設の玉突き建
 て替えてうまく工夫している例がある。
 北海道砂川市だ。

平成十六年から十八年にかけて、ま
 ちづくり交付金を活用して、砂川駅東
 側の国鉄跡地に地域交流センター「ゆ
 う」を整備した。計画段階からワーク
 ショップ形式で住民の意見を聞いて整
 備したもので、このときの住民等の活
 動がNPO法人「ゆう」の設立につな
 がり、このNPO法人は地域交流セン
 ターの完成後は施設の指定管理者とな
 り、市民主導で管理・運営が行われて
 いる点が大きな特徴である。
 砂川市ではこれに終わらず、駅東側
 のまちづくり交付金に続いて、駅西側
 の中心市街地について、中心市街地活
 性化基本計画の認定を受けた。



※砂川市中心市街地活性化基本計画
 （平成19年8月）に筆者が加筆して作成

このなかで注目する事業は、砂川市
 立病院の建て替えである。その手順は
 こうだ。①まちづくり交付金を活用し
 て、地域交流センター「ゆう」を整備
 ↓②「ゆう」に市民会館の機能を代替
 させ、老朽化した市民会館は解体↓③
 市民会館跡地に、隣接の砂川市立病院

を新築移転する、という施設の玉突き
 整備だ(図)。

この砂川市立病院は、北海道空知地
 域の中核病院であり、とりわけ産科に
 ついては、全国的に深刻な状況のなか、
 隣接する滝川市・美唄市とともに産婦
 人科を砂川市立病院に一本化、産科医
 が四人確保されている病院である。

この病院の建て替えに国土交通省の
 中心市街地への都市機能の立地を支援
 する「暮らし・賑わい再生事業」を活
 用する予定である。

既存集積から中心市街地の役割を見いだし

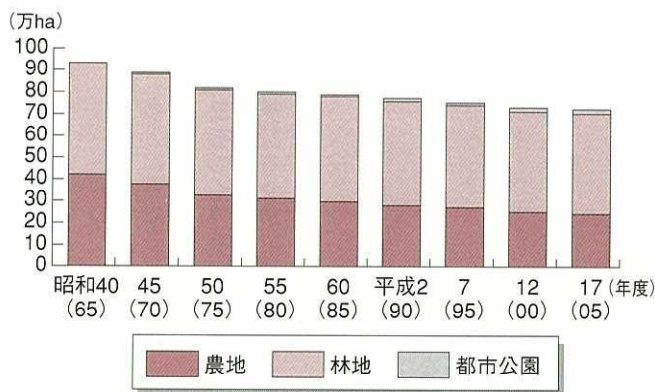
郊外の集積に押されて衰退したとは
 いえ、中心市街地には交通結節点を
 じめ、残されている既存集積が何かあ
 るはずだ。かつての賑わいを復活する
 のは無理としても、既存集積に新たな
 中心市街地の役割を見いだしえないも
 だろうか。

「ささき・ただし」

中心市街地活性化、都市農村交流、まちづくり
 交付金の事業評価制度、社会資本マネジメントに
 おけるNPOと行政との連携など携わった調査研
 究分野は幅広い。地方都市に生まれ育った経験と、
 実際に地方を見て歩いた実体験に基づいて調査研
 究に挑む研究者。

● ● ● 都市・地域づくりにおける地球温暖化の緩和に向けた課題

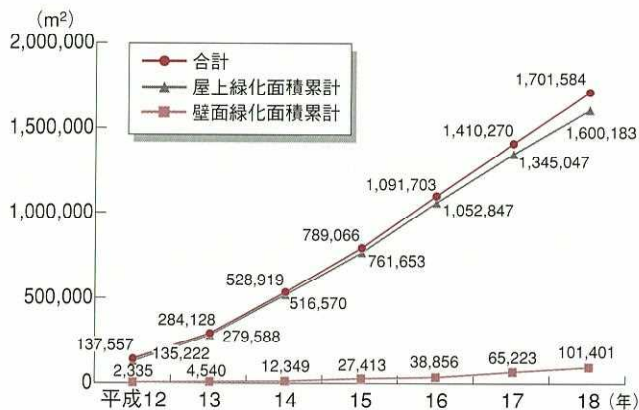
首都圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）における緑地面積の推移



資料)国土交通省

「緑地、水辺の保全・再生・創出」
 緑地は、CO₂の吸収源として温暖化の緩和に貢献するものであり、国土づくりの中で森林の整備・保全、都市緑化等を推進する必要がある。特に、都市部におけるまとまった緑地は、都市活動で排出される人工廃熱の増加や、建築物・舗装面の増大等による地表の人工化によって引き起こされる気温の上昇やヒートアイランド現象の緩和にも寄与する。このため、緑地、水辺の保全・再生・創出等を通じて、居住環境等の改善とともに、地球環境への負荷の軽減を図っていくこと

全国の屋上緑化・壁面緑化の施工面積



資料)国土交通省

が必要である。
都市緑化の効果
 人口増加や市街地の拡大等に伴い、都市では、緑地や水辺等の自然的空間が次第に失われてきた。例えば、首都圏においては、昭和四〇年度から平成十七年度までの四〇年間に二二%の緑地が減少した。
緑地、水辺の保全・再生・創出の必要性
 新たに緑を増やせるスペースとしては、建物の屋上や壁面等が注目されている。建物の緑化は緑地面積を増やすだけでなく、日射を遮り建物への熱の流入を抑制することで、夏場の冷房エネルギーの削減

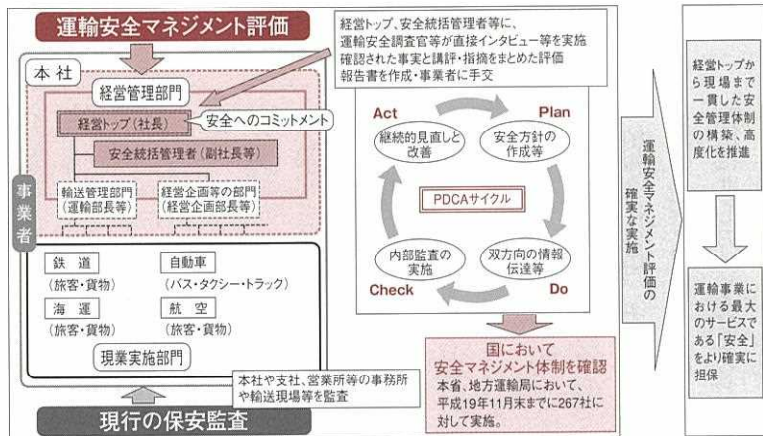
減にも貢献する。平成十二年から十八年の間に整備された屋上と壁面を合わせた緑化面積は、全国では、官民合わせて約一七〇万㎡となっている。
 国では、官庁施設の建設、運用、廃棄に至るまでのサイクルを通じて環境負荷の低減を図るグリーン庁舎の整備を進めており、その一つとして庁舎の緑化を積極的に進めている。民間施設では、所有者の協力を得ながら緑化を進める必要があるが、例えば東京都では、一定規模以上の敷地を有する民間の建築物を対象に屋上等の緑化を進めており、十八年末現在で、約七十七万㎡が緑化されている。
 緑化と併せ、河川や水路の水の流れを確保することも重要であり、河川水だけでなく地下水や雨水、下水の再生水等を用いた水辺の再生や道路への散水等を進めていくなどの取組みが必要である。
 今後とも、都市の環境インフラとして、都市内外でまとまりのある緑地や水辺等の自然環境を確保していくとともに、それらをネットワークとして配置することで「緑の回廊」を形づくり、生活環境、景観、防災性の向上、生物多様性の保全等にも貢献するとともに、風の通り道をつくり都市の熱環境の改善を通じたCO₂の削減を図っていくことが必要である。



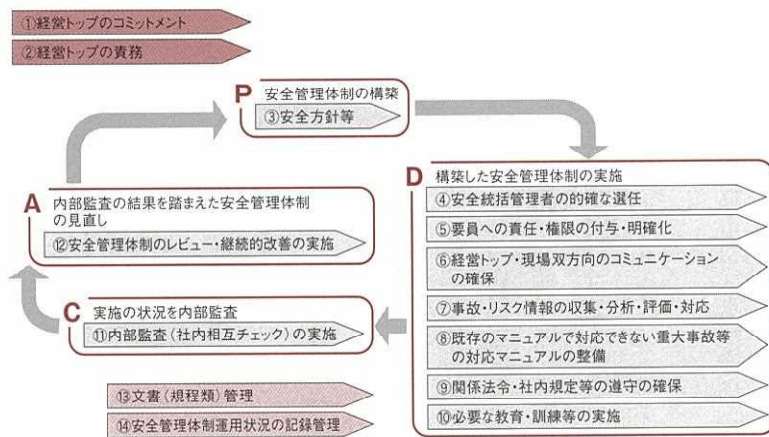
公共交通機関における安全管理体制の構築

ヒューマンエラーに起因すると見られる事故・トラブルの多発を受け、平成十八年十月に「運輸の安全性の向上のための鉄道事業法等の一部を改正する法律（運輸安全一括法）」が施行され、陸・海・空の運輸事業者に対し、経営トップから現場まで一丸となった安全管理体制の構築を図るため、「安全管理規程」の作成・届出、「安全統括管理者」の選任・届出

新たな運輸安全マネジメント評価の実施イメージ



安全管理規程に係るガイドラインの内容



等が義務付けられた。また、国土交通省では、経営トップや安全統括管理者等が行う安全管理体制への取組み状況について、「安全管理規程に係るガイドライン」に沿って評価し、更なる安全の確保に資する「運輸安全マネジメント評価」を新たに実施し、事業者に対して改善方策の助言等を行っている。運輸安全マネジメント評価は、いわゆ

るPDCAサイクルによる取組みの向上を図るもので、従来からの保安監査と車の両輪となって実施することにより、公共交通機関のより一層の安全の確保が図られる。十九年十二月までに、本省と地方運輸局等を併せてのべ三四社（鉄道九八社、自動車九九社、海運一〇〇社、航空十七社）に対して運輸安全マネジメント評価を実施した。

国土交通省は、制度開始後一年が経過した十九年九月に、これまでの評価結果の全体概要を次のとおり取りまとめた。
 (1) 経営トップのリーダーシップの下、「安全管理規程」の作成・届出、「安全統括管理者」の選任・届出等の基本的な枠組みはおおむね構築されている。
 (2) 一方で、制度が始まって間もないことから、安全管理体制の構築・改善に必要な取組み（ガイドライン③、⑦、⑧、⑩、⑪、⑫）について、多くの事業者が取組み途上である。

今後は、評価を行った事業者からの意見を踏まえ、シンポジウム等による本制度の周知・啓発、模範となる取組み事例の収集・提示、各種研修の受講等を通じて評価員の能力の充実・強化等を図っていくこととしている。



景観実務研修の 受講生から始まった景観の輪

当センターの研修をきっかけに、受講した方々が更なる相互啓発を図るため、新たなグループをつくって活動する、それは主催する側にとつて望外の喜びです。今回のセンター通信では、そうして生まれた「全国景観会議」の活動について、同会議メンバーの甲斐英樹さんにご紹介いただきました。

平成十六年に施行された「景観法」に伴い、全国建設研修センターにおいて、景観条例から景観法への速やかな移行と、景観計画策定等の景観行政実務に必要な基本的知識の習得を図るため、同年「景観実務研修」が実施されました。この研修を契機に、毎夏、有志による「全国景観会議」を開催しています。平成十七年に十名が参加した京都會議から早四年、景観の輪は徐々に広がりを見せ、七月五・六日に開催した今年の広島では三二名の参加を得ることができました。

本会議は、市町村合併等により広域化する管内の景観を統一したコンセプト（概念）で計画的に構成し、後世に引き継ぐため、全国の事例等を持ち寄る情報交換の場、そして情報収集のためのアンテナ設置を目的としています。景観に関心のある方ならどなたでも参加できる会議です。来年は日光での開催を予定していますので、ぜひ皆さん

の参加もお待ちしています。

さてここでは、「双方向の景観」をテーマとした広島会議の初日の模様を報告させていただきます。

「第四回全国景観会議 in 広島」 （テーマ：双方向の景観）

《現地踏査》（広島駅⇄縮景園⇄広島城）
七月五日 十三：〇〇～十四：二〇

集合場所に指定した広島駅（南口）に見慣れた顔が徐々に集まり、「久しぶり！」「元気だった？」「忙しい？」、こんな日本人らしい挨拶を交わすいつもの光景に、今年は「はじめまして！」と挨拶する多くの仲間が加わり、梅雨時期とは思えぬ猛暑の中、現地踏査から広島会議の幕が上がりました。

視察先は「広島市景観形成基本計画」取組方針（縮景園周辺地区）及び「縮景園周辺建物等美観形成要綱」を有する「縮景園」、戦国時代に築城され、戦時中、そして現在に至る街並みの移り変わりを見守り続けている「広島城」、世界遺産として、全世界の平和への祈りが捧げ続けられている「平和公園」の三カ所。

今回は広島市初代景観係長を務められた山崎学さんにもオブザーバーとしてご参加いただき、現地説明を受けな

縮景園：広島藩主浅野長晟（ながあきら）により、元和（げんな）6年（1620）から別邸の庭園として築成されたもので、作庭者は茶人として知られる家老上田宗箇である。昭和20年（1945）原爆によって崩壊状態になったが復元に努め、現在も名勝庭園として親しまれている。



広島城：天正16年（1588）、郡山城がすでに時代遅れであることを悟り、城主毛利輝元が新しい城づくりを決意したと言われ、翌年、中国地方一帯を治めることができる城と城下町建設のため、祖父毛利元就が重視していた広島湾頭を城地として選んだ。当時、「五箇」と呼ばれていたこの地が「広島」と名付けられたのは、この時であったとも言われている。



がらの踏査となりました。

《移動》《世界遺産航路：平和公園⇄宮島棧橋》十四：二〇～十五：〇〇

現地踏査が長引き、奇跡的に出航時



う前に。
の景観”を失
な”ふるさと
せんか。大切
考えてみま
ん。

しかしながら、思い出がいっぱい詰
まった”ふるさとの景観”を、そこで
育った人々すべての財産と解釈するな
ら、守り育て
るルールを作
るのは、意外
と容易なこと
かも知れませ
ん。

◆ ◆ ◆
景観に関する要素は、個々の感性に
大きく左右されることが多く、また個
人の財産に関するものも多いことか
ら、共通のルールを作るのは容易では
ありません。

◆ ◆ ◆
間に関に合った一行は、平和公園から
遊覧船で一路、宮島へ向かい、厳島神
社を参拝後、「大聖院」へ移動し、い
よいよ今回のメインである懇談会（下
欄）を開催して、一日目を終えました。
◆ ◆ ◆
なお、翌六日は宮島口へ車の浦へ福
山駅へ広島駅のルートで現場視察を行
い、解散となりました。

《懇談会》テーマ：「双方向の景観」 16:00～18:00 会場：大聖院

基調講演：「色の面白さについて」
講師：クロマ色彩研究所(有)

岩本知莎士

講演内容：補色とは、色相環で対
抗位置にある色。また、心理補色
とは、有彩色をじっと見つめた時
に見える補色残像の色を心理補
色という。例えば、赤をじっと見つ
めた後、視線を他へ移すと、色相
環の反対側の青緑が残像として
見える等、写真を交えながら講演。



補色関係にある建物
(広島市内)

基調講演：「ポップラ物語」

講師：山崎学

講演内容：住民の方々をはじめ
とするボランティア団体の活動
を題材に、人々と接する心構え
と、街に対する思いを講演。



テーマについて（説明・検討）

現地踏査により確認した「縮景園」及び「平和公園」とその周辺に隣接するマンションの高さによる影響について、双方向
における視点からシミュレーションを行うと共に、宮島町における景観の現状と問題点について説明を行い、次の2点につい
て検討を行う。

①このような景観になる前に、どのようなルールがあれば、こうした状況避けることが出来たのかについて



〈双方向写真〉
縮景園⇄マンション



〈双方向写真〉
平和公園⇄マンション

②市町村合併に伴い、対岸も廿日市市内となった現在の宮島町において、打つべき対策、また、決めておきたいルールについて



なぜ?こんな所に、このような建物が
建ったのか。なぜ、建築許可が出たの
か…。京都では…。



〈双方向写真〉
宮島⇄マンション



既存の建築物であっても、良好な景観の形成に
著しく支障となる場合は、法制度の活用によっ
て、必要な措置をとるよう命ずることができます。



広島は景観が整った街だと思
っていた。しかし、それぞれの
街で、色々な問題があることを
実感した。



社殿と鳥居とを結ぶ延長線上にある建物は、古
人を挑発するかのごとく、やはりそこにあります。
「どうして?」と学生時代にも考えさせられました。
20年経ってもその疑問に答えは見つかりません。
対岸も同じ廿日市市となった今、これからの展
開を見守りたいと思います。



講評：大聖院 小野湛海氏
色彩の面白さ、ボランティア活動に対する熱い思い。
そして、宮島の景観について熱く議論していただき、
嬉しいと共に、大変勉強になりました。これからもゼ
ひ頑張ってください。

《懇親会》（懇談会の延長戦） 19:00～ 体力が続く限り、続けられた。



土 木技師・八田與一は作業着姿で腰をおろし、珊瑚潭の静かな水面を見おろしていた。その思案気な表情は何を考えているのか。私たち一行は各々の感慨を胸に、八田技師の銅像とその背後にある夫妻の墓に献花した。「高橋裕先生と行く！台湾土木現地研修」と銘打たれたツアーの四日目、十月五日のことである。

このツアーは、今秋完成する虫プロダクションのアニメ映画「パッテンライク〜南の島の水ものがたり〜」の製作を記念して企画された。パッテンライとは「八田がやってきた」という台湾語。日本統治時代、八田技師は台湾の民衆と力を合わせ、不毛の大地であった嘉義と台南の間に広がる嘉南平原を一大穀倉地帯に変えた。十年の歳月をかけ、「嘉南大圳」という空前の水利開発事業を行ったのだ。「パッテンライ」

八田與一の功績と精神にふれて



編集部

は、この難工事に挑んだ大人たちを見ながら成長していく子供たちの物語であるという。

嘉南大圳は、烏山頭ダムがいわばその心臓部にあたる。当時は東洋一の規模を誇り、堤延長二二七三m、堤の高さ五六m、貯水量一億五〇〇〇万トンの巨大なアースダムである。ここから広大な平野に給排水路が血管のごとく巡らされ、その総延長は一万六〇〇〇kmに達し、十五万ヘクタールの大地を潤した。ダムで堰き止めた人造湖が珊瑚潭であり、周囲の山々や溪谷に沿っ

た水面が珊瑚樹のように見えることが多付けられた。昭和五年に完成した烏山頭ダムは、今では周囲一体が公園化され、訪問時も多くの方々が賑わっていた。当時、環境への配慮ということはあまり意識されなかったであろうが、まるで太古からの湖のごとく見事に自然にとけ込んでいく堰堤や水庫を眺めていると、八田技師の優れた才能の一つが先見性ではないかと感じるのには私だけだろうか。



ご案内いただいた徐さん(右から3人目)その隣が高橋先生

で、大きくゆっくり回している時は機嫌が良く、速く回している時は機嫌が悪い。そんな時は誰も近づかなかった」といったエピソードも達者な日本語で話されていた。徐さんは、水路管理の仕事をしていた父親から八田技師の話を度々聞かされ、土木を志したのだという。

台湾の人々に愛され、多くの影響を与えた八田技師。高橋先生は表敬時のスピーチで、「八田與一の偉大なところは最初にダムありきではなく、農民を救おうと考え、その使命感からダムをつくった。だから、今でも毎年命日である五月八日には嘉南農田水利会の手で墓前祭が行われ、台湾と日本の友好の架け橋にもなっている」と指摘された。私自身、今回の訪問で八田技師の功績と精神にふれ、多くの感銘を受けた。ただ、それを一過性のもので終わらせてはならない。土木技術者のあるべき姿を体現した先駆者として広く伝えていければと思う。それが、心から嘉南農田水利会の方々の思いに込めることでもある。

『偽善エコロジ』

「環境生活」が地球を破壊する



武田 邦彦 著
幻冬舎 新書
777

コンビニで買い物をした時に「袋はいりません」と言うと、自分も少しは環境に良いことをしている気持ちになる。

ところが本書によれば、レジ袋は実際には石油の中で使い道がないとされていた成分を有効利用した結果作られたものであり、石油資源の無駄にはあたらないう（逆にエコバックは石油の中の貴重な成分を使用するため節約にはならない）。

他にも「地球温暖化はCO₂削減努力では防げない」「ゴミの分別は意味なし」「ダイオキシンは有害ではない」といったように「エコな暮らし」に関して我々が普段いやというほど耳にする「常識」が、確実なデータや情報を用いることにより、またリサイクル関連の利権の構図を明らかにすることにより次々と覆されていく。

個人的には、本書に正面から反論できるようなエコロジの議論の登場を望みたい。

(た)

『明日を支配するもの』

二一世紀のマネジメント革命

本書で取り上げられている新しい現実、は、これまでとは全く異質であり、今日当然とされ、成功の基盤となつていくものとは相入れない。今は転換期にあり、これから起こる変化は、十九世紀半ばの第二次産業革命、大恐慌や第二次世界大戦後の構造変化よりも急激であるとしている。

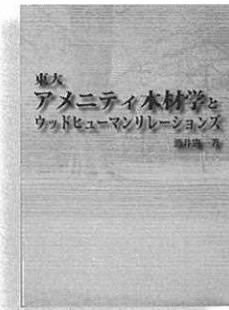
働く人の環境から、マネジメントの常識、経営戦略の前提の変化について取り上げ、生き残れるのは自ら改革の担い手、チェンジリーダーとなる者のみとしている。また、新情報革命が始まったことで情報の意味と目的が問題になり、情報の助けによって行わなければならないこと、二〇世紀にテイラーの偉業により肉体労働の生産性が五〇倍になったように、二一世紀には知識労働の生産性を向上すべきことを説く。最後に、組織より寿命が長いとされる知識労働者一人ひとりの問題に触れ、自らのマネジメントについて述べている。

(し)



著者社日
P・F・ド
ラッド
上田
ダイ
カー
生
ラ
ン
ド
ン
モ
ン
ド
ヤ
2,310

『東大アメニティ木材学とウッドヒューマンリレーションズ』



酒井 憲一 著
(有)アメニティライフ
1,942円

アメニティは生活全般に求められるものだから、アメニティ研究者は幅広い守備範囲が必要となるにしても、旺盛な好奇心と探求心でどの分野にも飛び込んでいく酒井翁には、いつも敬服する。

草の根のアメニティ交流のため、単身メキシコの夜間小学校に入学したかと思えば、今度は東大の門をたたき、都市論を学んだ。その後さらに「アメニティ木材学」を提唱する信田聡助教授のもとで研究生となり、その成果を本書に取りまとめた。

木材学への傾倒は、小田急電鉄に木ベンチへの回帰をアピールしたのが発端のようだが、その根拠となる木と人の関係を科学したいという強い思いは、とりわけ信田助教授あてに毎日送信した「アメニティ木材学物語」と題するメールエッセイに表されている。本書にはその五〇編が収録され、多彩な比喩や引用も交えた文理融合の筆致を通して、木材アメニティに対する翁の愛着が木の温もりのように伝わってくる。

(し)

『日本には建設業が必要です』

建設業倒産に歯止めがかからない。マスコミによる一方的な公共工事不要論は、地域の老舗建設業者から裾野まで危機へ追い込み、そのことが暮らしの安心・安全を脆弱化させていることを毅然と、整然と提示する例を見ない。黙々と社会基盤を支えている建設業の正當や、地域社会に根を張って貢献してきた地道が報じられることもない。

そこへ本著である。地域のために、前向きにがんばる建設業の姿を伝えたい。「地域の建設業を助けなければ、地方がだめになってしまう」という米田雅子氏のひと言をきっかけに、地方建設記者の会が団結して発した緊急レポートである。

編者の米田氏には、建設業を活かした地域活性化に関する論文や書籍も多く、地域のコミュニティを支えてきた地域建設業こそ地域再生の鍵を握ると訴え続けてきた。社会がいかに変わろうとも「日本には建設業が必要です」。そのことを一般市民みずから発する潮流としたい。

(お)



Masako yanabu
米田雅子
+地方建設記者の会
米田雅子+地方建設
記者の会 編著
建通新聞社
1,890円



技術検定試験のご案内

種 目	受 験 資 格	試験実施日 (平成20年)	試 験 地	申込受付期間 (平成20年)
一級土木施工管理 技術検定・学科試験	所定の実務経験年数を有する者。 二級土木施工管理技士で、所定の実務経験年数を有する者。	7月6日(日)	札幌・釧路・青森・仙台・ 東京・新潟・名古屋・大阪・ 広島・岡山・高松・福岡・沖縄	4月1日から 4月15日まで
一級土木施工管理 技術検定・実地試験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	10月5日(日)	札幌・釧路・青森・仙台・ 東京・新潟・名古屋・大阪・ 広島・岡山・高松・福岡・沖縄	4月1日から 4月15日まで
二級土木施工管理 技術検定 学科・実地試験 (土木・鋼構造物塗装・薬液注入)	所定の実務経験年数又は学歴を有する者。	10月26日(日)	札幌・釧路・青森・仙台・秋田・ 東京・新潟・富山・静岡・名古屋・ 大阪・広島・岡山・松江・高松・ 高知・福岡・鹿児島・沖縄	4月1日から 4月15日まで
一級管工事施工管理 技術検定・学科試験	所定の実務経験年数を有する者。 二級管工事施工管理技士で、所定の実務経験年数を有する者。 職業能力開発促進法による配管等の 一級技能検定合格者で所定の実務経験年数を有する者。	9月7日(日)	札幌・仙台・東京・新潟・ 名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・沖縄	5月7日から 5月21日まで
一級管工事施工管理 技術検定・実地試験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	12月7日(日)	札幌・仙台・東京・新潟・ 名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・沖縄	5月7日から 5月21日まで
二級管工事施工管理 技術検定 学科・実地試験	所定の実務経験年数又は学歴を有する者。 職業能力開発促進法による配管等の 一級または二級技能検定合格者で所定の実務経験年数を有する者。	11月16日(日)	札幌・青森・仙台・東京・新潟・ 金沢・名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・鹿児島・沖縄	5月7日から 5月21日まで
一級造園施工管理 技術検定・学科試験	所定の実務経験年数を有する者。 二級造園施工管理技士で、所定の実務経験年数を有する者。 職業能力開発促進法による造園の 一級技能検定合格者で所定の実務経験年数を有する者。	9月7日(日)	札幌・仙台・東京・新潟・ 名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・沖縄	5月22日から 6月5日まで
一級造園施工管理 技術検定・実地試験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	12月7日(日)	札幌・仙台・東京・新潟・ 名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・沖縄	5月22日から 6月5日まで
二級造園施工管理 技術検定 学科・実地試験	所定の実務経験年数又は学歴を有する者。 職業能力開発促進法による造園の 一級または二級の技能検定合格者で所定の実務経験年数を有する者。	11月16日(日)	札幌・青森・仙台・東京・新潟・ 金沢・名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・鹿児島・沖縄	5月22日から 6月5日まで
土地区画整理士 技術検定 学科・実地試験	学歴により所定の実務経験年数を有する者。 不動産鑑定士及び同士補で所定の実務経験年数を有する者。	9月7日(日)	仙台・東京・名古屋・ 大阪・福岡	5月7日から 5月21日まで (予定)

お問い合わせ先

財団法人 全国建設研修センター

試験業務局 〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスビル永田町ビル
ホームページアドレス: <http://www.jctc.jp/>

●土木施工管理技術検定<一・二級学科及び実地試験>(土木試験課)

☎ 03(3581)0138(代)

●管工事施工管理技術検定<一・二級学科及び実地試験>(管工事試験課)

●造園施工管理技術検定<一・二級学科及び実地試験>(造園試験課)

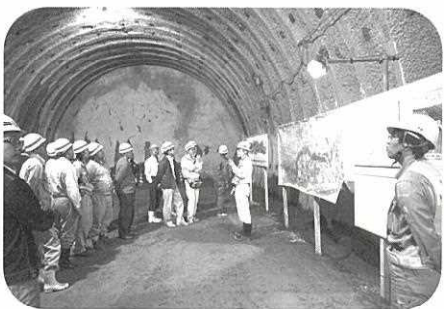
●土地区画整理士技術検定<学科及び実地試験>(区画整理試験課)

☎ 03(3581)0139(代)

財団法人 全国建設研修センターが行う研修は

新しい知識と情報の修得、 そして相互啓発の場として 活用されています

★「研修計画一覧」は次ページをご覧ください。



研修の特色

■ 40 有余年の伝統と実績

昭和 37 年設立、その後、建設省建設大学校（国土交通大学校）の行う研修を補完する唯一の機関として位置づけられました。

年間約 4 千人が受講、各方面で活躍されています。

■ 時代に即した研修コースと充実した講師陣

時代のニーズに即した研修コースが用意されています。講師は、国土交通省等の政策担当者、大学教授、第一線で活躍されている民間の専門技術者などです。

■ 演習・討議・見学を効果的に採り入れたカリキュラム

行政の最新動向、最新技術を採り入れた体系的な講義のほか、演習、実習、事例研究、グループ討議、現地見学を組み合わせ、研修効果をあげています。

■ スキルアップに加え相互啓発効果

合宿研修により、組織外交流、異業種交流の場となって互いの向上心を刺激、スキルアップに加え相互啓発効果もあげています。

■ 国・自治体・民間が研修を積極的に活用

職員研修、社員教育などの計画に当センター研修を組み込み、人材育成目的に応じた体系的学習、情報収集の機会として利用されています。

研修参加者の声

- 新しい知識、情報を得ることができ、仕事に役立てることができた。
- 上司や同僚の信頼が厚くなった。
- 全国から集まった人たちとの立場を超えた交流は、よい経験であり、自分の財産になった。
- 普段、接することのできない講師から有益な話が聞け、新しい視点が加わった。
- 一つの事業実施にもさまざまな角度からの検討方法があることを学び、早速実践に役立てたい。

研修派遣者の声

- センターの研修は私たちのニーズにマッチし、実力がつくので参加させている。
- 参加者はさまざまな知識を得るとともに、研修生同士の意見交換などでいい刺激を受けるようだ。職場に戻り的確な発言をするなど、仕事への取組姿勢が積極的になった。



継続教育 (CPD)

当センターの研修は、「土木学会」「建設コンサルタンツ協会」「日本都市計画学会」「日本技術士会」「地盤工学会」「全国土木施工管理技士会連合会」等の団体の継続教育 (CPD) として活用できます。

▷研修時期・日数等は変更することがあります。

部門	研修名	募集人数(人)	日数	研修初日	研修会費(円/人)
河川・砂防	河川計画	40	5	11/10	94,000
	河川調査・計画演習	50	5	6/30	77,000
	河川構造物設計演習	50	11	6/10	147,000
	河川環境	40	4	9/16	82,000
	砂防一般	40	5	11/10	99,000
	砂防等計画設計	40	9	6/5	134,000
ダム	ダム総合技術	50	5	5/12	80,000
	ダム管理主任技術者(学科)	90	5	4/14	102,000
	ダム管理主任技術者(実技)	90	3	5/12	78,000
	ダム工事技術者	30	12	1/26	322,700
道路	道路計画一般	60	10	11/11	121,000
	道路総合政策	40	5	6/23	99,000
	舗装技術	40	3	4/22	67,000
	市町村道	60	5	10/27	90,000
	環境舗装	40	4	9/9	75,000
	交通安全事業(市町村道)	50	4	7/15	79,000
橋梁	橋梁設計	50	11	8/26	141,000
	鋼橋設計・施工	50	3	1/28	68,000
	プレストレスト・コンクリート技術	50	5	7/14	80,000
	橋梁維持補修	50	5	12/1	86,000
	くい基礎設計	40	4	11/25	75,000
都市	都市計画	50	11	5/20	141,000
	景観実務	40	10	2/16	135,000
	都市再開発	40	5	11/10	94,000
	中心市街地活性化実務	40	5	8/25	90,000
	開発許可	50	5	7/7	71,000
	街路	40	5	10/20	87,000
	交通・まちづくり	40	5	10/27	88,000
	官民協働のまちづくり	40	3	7/23	67,000

部門	研修名	募集人数(人)	日数	研修初日	研修会費(円/人)	
都市	宅地造成設計・施工	50	5	6/2	89,000	
	宅地造成技術講習	100	5	7/28	72,000	
	下水道	50	5	5/26	80,000	
	下水道(管路)管理	40	4	10/14	84,000	
	推進工法	50	4	1/20	76,000	
	公園・都市緑化	40	4	9/16	83,000	
	区画整理	40	5	11/17	89,000	
	マンション・団地再生	40	3	1/14	68,000	
	建築	建築設計	40	9	11/26	127,000
		建築S構造	40	9	9/4	116,000
建築耐震技術		40	4	5/13	75,000	
建築環境		40	5	10/6	88,000	
建築設備(電気)		40	10	2/16	141,000	
建築設備(衛生)		50	5	7/14	101,000	
建築工事監理		60	5	10/20	95,000	
建築保全		40	5	1/26	99,000	
アスベスト対策		40	3	5/21	62,000	
第一級陸上特殊無線技士		50	12	11/25	83,000	

研修のお問い合わせ先

財団法人 全国建設研修センター

研修局 〒187-8540 東京都小平市喜平町2-1-2

☎ 042(324)5315(代)

ホームページアドレス: <http://www.jctc.jp/>

各研修のくわしい内容はホームページをご覧ください。

平成20年度研修計画一覧

I. 行政職員のみを対象とした研修コース(行政研修)

部門	研修名	募集人数(人)	日数	研修初日	研修会費(円/人)
事業監理	公共工事契約実務	40	5	9/29	86,000
	地方自治体における総合評価の仕組みづくり	50	3	5/28	62,000
	総合評価方式の活用	40	3	6/18	62,000
	建設マネジメント	40	3	11/5	69,000
施工管理	土木工事積算	50	5	6/2	75,000
	土木工事監督者	60	5	6/30	79,000
	品質確保と検査	40	5	10/6	84,000
防災	災害復旧実務	50	5	5/19	93,000
土地・用地	用地一般	60	11	5/20	118,000
	用地事務(土地)	50	5	12/1	76,000
	用地事務(補償)	50	5	12/8	72,000
	用地補償専門(ゼミナール)	40	5	9/29	77,000
ダム	ダム管理(管理職)	30	3	4/9	65,000
	ダム管理	40	5	10/27	99,000
	ダム管理(操作実技訓練)	48	3	4/14	65,000
道路	道路管理一般	60	10	9/30	121,000
	道路舗装	40	5	7/7	95,000
建築	建築基準法(建築物の監視)	60	10	6/25	117,000
	公共建築工事積算	40	5	9/29	90,000
	公共建築設備工事積算(機械)	40	4	11/4	71,000

II. 行政・民間の両者を対象とした研修コース(一般研修)

部門	研修名	募集人数(人)	日数	研修初日	研修会費(円/人)
事業監理	アセットマネジメント	40	3	2/16	69,000
	PFI実務	40	5	1/26	89,000
	物流システム —道路交通・まちづくりと物流—	40	3	8/27	68,000
	住民参加合意形成 —PI(市民参画)—	40	4	6/17	90,000
	GIS(地理情報システム) 一般	40	3	4/23	72,000
	地理空間情報利用	40	4	10/14	85,000
	建設VE手法実践	40	4	7/29	64,000

部門	研修名	募集人数(人)	日数	研修初日	研修会費(円/人)
事業監理	建設プレゼンテーション・スキル	40	3	9/24	64,000
	土木施工管理	40	3	10/15	66,000
施工管理	コンクリート施工管理	40	4	4/21	79,000
	コンクリート構造物の維持管理・補修	50	3	11/26	64,000
	仮設工	50	5	9/8	79,000
	市街地土木工事	40	4	7/22	75,000
	土木技術のポイント(計画・設計コース)	40	4	10/21	78,000
	土木技術のポイント(施工・監督・検査コース)	40	4	10/27	78,000
環境	建設事業における環境保全対策	40	5	2/2	94,000
	自然環境再生	50	5	6/30	83,000
	土壌・地下水汚染対策と浄化事例	40	3	8/27	69,000
	ユニバーサルデザイン	40	5	9/1	90,000
土質	地質調査(土質コース)	50	4	4/21	78,000
	土質設計計算	50	4	9/2	75,000
	地盤改良工法	40	5	6/16	88,000
	補強土工法	40	4	10/7	86,000
	土木構造物耐震技術	40	4	9/16	77,000
防災	大規模災害と緊急対応	40	3	10/15	69,000
	斜面安定対策工法	50	4	9/16	70,000
	地すべり防止技術	50	8	5/15	133,000
トンネル	ナトム工法	40	5	11/17	89,000
	ナトム積算	50	4	11/4	71,000
土地・用地	用地関係法規	50	5	9/8	79,000
	土地・建物法規実務	40	4	7/8	75,000
	用地専門	50	5	1/19	72,000
	土地家屋調査実務	40	5	6/23	74,000
	不動産鑑定・地価調査等	60	5	6/2	84,000
河川・砂防	河川行政・技術基礎	50	5	10/20	91,000
	河川管理	40	5	11/17	85,000

信用と実績のある 当センターの「監理技術者講習」の特徴

- ◇現場経験豊富な講師が最新の情報を直接講義する対面講習です。
- ◇講習後にも現場で役立つ講習テキストです。
- ◇最新の情報を補足資料により提供します。
※企業向け出張講習も行っています。

みんなに
教えてあげよう！



- ◆9月1日以降に開催する講習から講習受講料を値下げしました。

- ・郵便で申込まれた場合：11,000円
- ・インターネットから申込まれた場合：10,500円

- ◆経営事項審査の改正により平成20年4月1日から「監理技術者資格証」を保有し、「監理技術者講習」を受講した1級の技術者は、1点加点評価されることになりました。

- ◆平成20年11月28日より、公共工事だけでなく重要な民間工事に配置する監理技術者にも「監理技術者講習」の受講が義務付けられます。

監理技術者講習のテキスト

平成20年9月版

本テキストでは、

- ① 建設業界を取りまく情勢
- ② 建設業法、諸制度の解説
- ③ 技術者の役割から工事管理のポイント
- ④ 建設副産物対策実務
- ⑤ 建設技術者として必要な最新情報、最新技術等を簡単明瞭に解説しています。

『企業向け出張講習』

受講者が50名以上集まれば、貴社でご用意いただいた場所で「監理技術者講習」を行います。日程、講習内容等の詳細についてはご相談ください。

申込みから受講まで(申込書無料)

申込書を
電話・FAXで請求

申込書を
ホームページからプリントアウト

インターネット申込み

- 基本情報入力
- 受講料の決済
- 写真の添付

申込書の記入・写真・受講料の決済

受付完了……受講票の発送

*申込みは随時受付しています。 *受講地・受講日は申込後も変更できます。

◎監理技術者講習の詳細は、当センターホームページでご案内しております。

財団法人 全国建設研修センター 講習局

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスヒル永田町ビル

TEL.03-3581-7611 FAX.03-3581-0316

ホームページアドレス：<http://www.jctc.jp/>

ウェブ検索で「全国建設研修センター」をキーワードとしてもアクセスできます。

監理技術者講習実施予定表

(平成20年10月17日現在)

講習地	予定会場	11月	12月	平成21年1月	2月	3月	4月	5月
札幌	札幌コンベンションセンター	28(金)	12(金)	22(木)	3(火)・26(木)	12(木)・24(火)		
	北海道開発協会			15(木)	10(火)		10(金)・14(火) 17(金)	12(火)・22(金)
江別	札幌理工学院	7(金)		14(水)	19(木)	17(火)	15(水)	
函館	ベルクラシック函館		19(金)			10(火)		19(火)
旭川	ベルクラシック旭川	26(水)		20(火)	6(金)	26(木)	21(火)	
帯広	道新ホール		10(水)		24(火)		23(木)	
青森	アップルパレス青森	18(火)		21(水)		17(火)	8(水)	13(水)
八戸	ユートリー		17(水)		18(水)		15(水)	
盛岡	盛岡建設研修センター		12(金)	21(水)	13(金)	19(木)	17(金)	20(水)
仙台	宮城県建設産業会館	5(水)・13(木)	4(木)・19(金)	23(金)	6(金)・20(金)	19(木)	10(金)・22(水)	15(金)・29(金)
秋田	秋田県JAビル	13(木)	10(水)		5(木)	17(火)	15(水)	27(水)
山形	山形県建設会館	7(金)		30(金)		11(水)	8(水)	
福島	福島県建設センター	28(金)		16(金)		13(金)	10(金)	
いわき	いわき建設会館	7(金)	19(金)			6(金)		
郡山	ビックパレットふくしま		5(金)		20(金)			22(金)
会津若松	会津若松商工会館				6(金)			
水戸	茨城県建設技術研修センター	28(金)		16(金)	13(金)	19(木)	10(金)	15(金)
宇都宮	コンセーレ		5(金)		10(火)	13(金)	22(水)	22(金)
前橋	群馬建設会館	21(金)		23(金)	20(金)	19(木)	22(水)	
さいたま	埼玉県民健康センター	11(火)	19(金)	16(金)	13(金)	6(金)	9(木)	12(火)
	埼玉建産連研修センター	28(金)			26(木)	19(木)	23(木)	28(木)
千葉	千葉県労働者福祉センター	21(金)・28(金)	4(木)	16(金)	6(金)・27(金)	19(木)	9(木)・23(木)	14(木)・28(木)
	ホテルブラザ菜の花					25(水)	15(水)	
柏	柏商工会館	7(金)		30(金)		6(金)	16(木)	21(木)
市川	市川グランドホテル						21(火)	
	全国町村会館	12(水)・18(火) 21(金)・26(水)	2(火)・5(金) 11(木)・15(月) 18(木)	9(金)・14(水) 18(日)・23(金) 28(水)	6(金)・10(火) 20(金)・23(月) 27(金)	3(火)・11(水) 15(日)・19(木) 23(月)	※	※
	砂防会館						14(火)・17(金) 23(木)	14(木)・25(月)
	都市センターホテル		14(日)					
一橋学園	全国建設研修センター研修会館	11(火)	16(火)	22(木)	3(火)・19(木)	5(木)・26(木)	※	※
横浜	関内新井ホール	11(火)・28(金)	4(木)・19(金)	16(金)・30(金)	10(火)・27(金)	13(金)・24(火)	9(木)・14(火) 23(木)	15(金)・21(木) 28(木)
相模原	けやき会館	21(金)		23(金)		6(金)	17(金)	
湯原	朱鷺メッセ	28(金)	19(金)	23(金)	20(金)	19(木)	24(金)	15(金)
長岡	ハイブ長岡	5(水)	2(火)	15(木)		3(火)	17(金)	
富山	ゴルフアートとやま		17(水)		10(火)	17(火)	23(木)	21(木)
金沢	石川県建設総合センター	18(火)		22(木)		5(木)	16(木)	
福井	福井商工会議所	5(水)		14(水)	4(水)	19(木)	15(水)	20(水)
甲府	かいてらす		19(金)			17(火)	24(金)	
長野	長野バスターミナル会館	21(金)		30(金)		6(金)	10(金)	29(金)
松本	松本商工会館		12(金)			17(火)		
	松筑建設会館							27(水)
岐阜	長良川国際会議場		12(金)		6(金)	11(水)	17(金)	
静岡	静岡労政会館	7(金)	18(木)	16(金)	6(金)	19(木)	24(金)	29(金)
三島	三島商工会議所		19(金)		13(金)			
	三島建設業協会						10(金)	
浜松	アクトシティ浜松		12(金)					
	サーラシティ浜松				17(火)			14(木)
名古屋	ローズコートホテル	7(金)・21(金)	4(木)・10(水) 18(木)	15(木)・29(木)	10(火)・27(金)	6(金)・19(木)	8(水)・16(木) 23(木)	14(木)・26(火)
津	メッセウイングみえ	18(火)	17(水)	20(火)		13(金)	10(金)	22(金)
京都	京都工業会館		12(金)		27(金)		10(金)	22(金)
	天満研修センター	21(金)	4(木)・19(金)	23(金)	18(水)	13(金)・24(火)	8(水)	20(水)
大阪	建設交流館				4(水)		※	※
堺	ホテルリパティブラザ						23(木)	28(木)
神戸	三宮研修センター	13(木)		16(金)		4(水)	15(水)	13(水)
岡山	岡山コンベンションセンター		10(水)		25(水)		8(水)	
広島	JAビル	18(火)	18(木)	14(水)	4(水)	11(水)	10(金)	13(水)
高松	サン・イレブン高松	18(火)		27(火)		24(火)	14(火)	
福岡	福岡県自治会館	18(火)	16(火)	22(木)	25(水)	19(木)	17(金)	27(水)
北九州	毎日西部会館		9(火)		13(金)			20(水)
長崎	長崎県漁協会館	28(金)				12(木)	22(水)	
熊本	熊本県青年会館	6(木)		20(火)		17(火)	15(水)	
鹿児島	鹿児島県市町村自治会館					25(水)		29(金)
浦添	結の街	21(金)		23(金)		24(火)	23(木)	

注1) 講習会場・受講日は変更する場合がありますので、当センターホームページでご確認ください。注2) 受講希望日が申込日から3週間以内の場合は事前にお問い合わせください。注3) ※は、実施を予定していますが、予定日が未定のところです。



刊 行 図 書 の ご 案 内



財団法人 全国建設研修センター

【建築設備分野】

■ 建築設備計画基準 (平成17年版)

国土交通省大臣官房官庁営繕部
設備・環境課 監修
(社) 公共建築協会 編
A4判・360ページ
(様式のC D付)
定 価：6,090円



本書は、4年ごとに見直しが行われている「建築設備計画基準」の最新基準を分かりやすく編集し、さらに基準運用のための資料等を追加してまとめ、官庁だけでなく、一般建物の設備計画にも十分適用できる内容となっています。

■ 建築設備設計基準 (平成18年版)

国土交通省大臣官房官庁営繕部
設備・環境課 監修
(社) 公共建築協会 編
A4判・816ページ
定 価：13,000円



本書は、平成18年4月に制定された「建築設備設計基準」に設計資料を加え分かりやすく編集し、公共建築設備だけでなく、一般の事務所建築設備の実施設計にも広く活用されています。

■ 建築設備設計計算書作成の手引(平成18年版)

国土交通省大臣官房官庁営繕部
設備・環境課 監修
(社) 公共建築協会 編
A4判・216ページ
(書式集のC D付)
定 価：5,800円



本書は、「建築設備設計基準(平成18年版)」に基づいて設計を行う際の計算様式及び計算例に、計算の根拠となる資料の参照先、留意事項等を追記し、分かりやすく編集したものです。使用している計算様式は官庁施設を対象としていますが、一般的な事務を行う施設の実施設計にも有効なものと考えられます。また、本書では、「建築設備設計基準(平成18年版)」の中で、特に説明されていない事項や誤りやすい箇所についても、重点的に補足説明を加えています。なお、付録として「建築設備設計計算書書式集(平成18年版)」(PDF)のCDが付いています。

【監理技術者講習テキスト】

■ 建設工事のための監理技術者必携平成20年9月版)

(財) 全国建設研修センター
編集・発行
B5判・544ページ
頒 価：2,000円



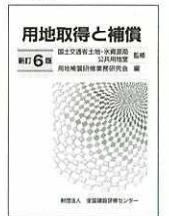
本書は、(財) 全国建設研修センターが実施する監理技術者講習で使用しているテキストです。監理技術者が習得すべき知識、技術を網羅したもので、講習終了後も業務の参考となるように編集してあります。また、発注者の立場の方にも十分活用できる内容となっています。今回、前年版の内容を大幅に改定しており、過去に当研修センターの講習を受講された方には特にお勧めの書です。

いつも手の届くところに…。
当センターの実務用図書!!

【その他の分野】

■ 用地取得と補償 (新訂6版)

国土交通省土地・水資源局
公共用地室 監修
用地補償研修業務研究会 編
B5判・580ページ
定 価：5,460円
刊 行：平成20年4月



本書は、土地取用制度と各種の補償制度(一般、公共、事業損失)について分かりやすく解説したものです。これらを補完する生活再建措置並びに調査、交渉、契約、支払い及び登記事務等広範囲にわたる専門技術的な知識についても体系的に網羅し、用地関係の仕事に携わる方々の実務や研修に最適です。

【下水道分野】

■ 下水道計画の手引 (平成14年版)

下水道計画研究会 編
A5判・464ページ
定 価：5,880円
刊 行：平成14年10月



本書は、下水道事業に新たに着手する市町村の職員の方々、下水道に関心のある人を対象として、小さい投資で下水道をいかに効率的に整備するか、下水道整備をまちの発展にいかにつなげるか、を念頭におきながら下水道計画を策定するための手引書です。

■ 下水道事業の評価制度

下水道事業評価研究会 編
A5判・184ページ
定 価：2,100円
刊 行：平成14年12月



本書は、平成10年度にスタートした公共事業の評価のうち、下水道事業評価手法を分かりやすく具体的にQ&Aも交えて解説しています。関係通知も網羅した下水道事業を行う実務者必携の解説書となっています。

■ 下水道維持管理の手引

下水道維持管理研究会 編
A5判・416ページ
定 価：5,403円
刊 行：平成7年11月



本書は、下水道の適切な維持管理を行うための第一歩として、多くの事例を交えて維持管理の内容を分かりやすく解説しています。現在、中小規模の下水処理場の維持管理に携わっている方々、これから行おうとしている方々の手引書です。

〈お問い合わせ・お申し込み先〉

財団法人 全国建設研修センター 建設研修調査会

〒187-8540 東京都小平市喜平町2-1-2

TEL. 042-327-8400 FAX. 042-327-8404

●送料等については当センターホームページをご覧ください。

ホームページアドレス：<http://www.jctc.jp/>

●各図書の定価は税込となっています。

資格・就職に強い建設の伝統校



財団法人全国建設研修センター付属

札幌理工学院

北海道知事認定校・国土交通大臣登録校・国土交通大臣認定校



●札幌理工学院の特色

- ◆ 35年余の伝統と建設技術教育実績
- ◆ 8,300名を超えるOBネットワーク
(平成19年度卒業生就職率100%)
建設業界の就職に強い
- ◆ 測量士(補) 国家試験免除校
- ◆ 実務型建設技術者教育の実践
- ◆ 最先端機器による技術教育

【資格取得に抜群の実績】

- 建築士
- 測量士
- 測量士補
- 土木施工管理技士
- 建築施工管理技士
- 車両系建設機械運転技能者
- 玉掛技能者
- CAD利用技術者
- 福祉住環境コーディネーター
- インテリアプランナー
- カラーコーディネーター など

札幌理工学院の各種支援制度

- ◆ 特待生、奨学生制度
- ◆ 生涯能力開発給付金制度
- ◆ キャリア形成促進助成金制度
- ◆ 学生支援機構奨学金対象校
- ◆ 各種学費減免制度有り
(詳細は、直接学院へ)

●設置学科

測量学科

(1年制/30名・男女)



わずか1年で「測量士」・「測量士補」を取得。測量技術者への最速最短コース。

土木工学科

(2年制/60名・男女)



「建設CALS/EC」「ISO」「環境」をマスターした現場監督、設計技師を養成。

建築工学科

【建築コース】

(2年制/40名・男女)



一般住宅やビルなどの「建築設計」から「施工技術」までトータルに対応できる建築士を養成。

建築工学科

【デザインコース】

(2年制/40名・男女)



建築設計に必要な「デザイン」を徹底マスター。豊かな住環境をプロデュースする建築士を養成。

●札幌理工学院の厚生施設

- ◆ 学生会館完備(男子寮、女子寮)
全室一人部屋、朝夕2食付!



- ◆ 学生食堂完備
味はもちろん、ボリュームも満点!
価格も安い!



- ◆ 学生駐車場完備(自動車通学可)
自動車での通学OK!
自転車やバイクでの通学も可能!



資料請求・お問い合わせ先

〒069-0831 北海道江別市野幌若葉町85-1
☎ 0120-065-407 TEL 011-386-4151 FAX 011-387-0313
URL <http://www.srg.ac.jp/> Email info@srg.ac.jp

ワークショップ「土木と学校教育の接点」

「土木」とは、「みち」や「まち」や「みなと」をつくり、川や緑などの「環境」を整えていく、社会的な取り組みを言います。こうした社会的取り組みを題材とした学校教育には、防災教育、まちづくり教育、あるいはシチズンシップ教育をはじめとした様々な可能性があります。

本ワークショップでは、実践事例報告や土木関係者と学校教育関係者によるパネルディスカッションを通じて、土木と学校教育の接点を探ります。

日 時：2008年12月25日(木) 受付9:30～10:00
 会 場：土木学会 AB会議室(新宿区四谷) 定員50名
 参加費：1000円
 参加申込・お問合せ：
 土木学会企画総務課 保坂
 TEL 03-3355-3442 FAX 03-5379-0125
 Web <http://www.jsce.or.jp/committee/education/dobokukyouiku/ws/ws.html>
 主 催：土木学会 教育企画・人材育成委員会 「土木と学校教育委員会」検討小委員会

プログラム

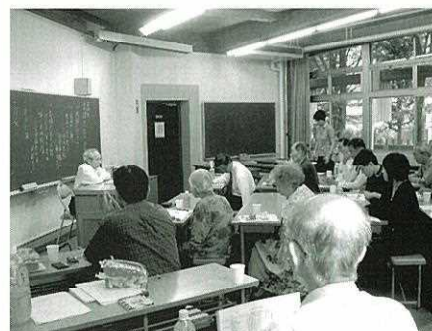
※講演・発表タイトルは若干変更になる可能性があります。

10:00～10:30	講演「土木と学校教育」	東京工業大学大学院 藤井聡
10:30～11:00	講演「シチズンシップ教育と土木」	筑波大学大学院 唐木清志
11:00～12:00	実践事例報告Ⅰ <ul style="list-style-type: none"> ・土木遺産を活用した学習の実践事例 ・防災学習の実践事例 ・土木の出前授業の実践事例 	北海道教育大学 今尚之 報告者交渉中 足利工業大学 末武義崇
13:00～14:00	実践事例報告Ⅱ <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり学習の実践事例 ・モビリティマネジメント学習の実践事例 	報告者交渉中 秦野市教育委員会 高木俊樹
14:00～16:30	パネルディスカッション「土木と学校教育の接点」 <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター ・パネリスト 	東京工業大学大学院 藤井聡 学校教育関係者交渉中 大阪大学大学院 松村暢彦 国立教育政策研究所 工藤文三
16:30～17:00	とりまとめ	

※ワークショップ後、懇親会(会費制)を予定しております。

『高橋裕先生のお話を聞く会』 第7回

話 題：マイ・ヒストリー～多摩川水害(1974)と水害訴訟～
 日 時：2008年12月6日(土)
 13:00～17:00
 場 所：早稲田大学理工大久保キャンパス
 東京都新宿区大久保3-4-1
 参加費：一般1000円 学生無料
 お茶やお菓子などどうぞ自由にご持参ください。
 お問合せ・連絡先：早稲田大学創造理工学部
 社会環境工学科 佐々木葉
 TEL/FAX 03-5286-3989
yoh@waseda.jp



この時期の楽しみはやはり紅葉と温泉である。今回やって来たのは奥秩父にある「道の駅 大滝温泉」。周辺には大小の滝が点在し、行楽におすすめのスポットだ。



館内には檜風呂(1階)と岩風呂(地下1階)があり専用の階段でつながっている。湯船から下を流れる荒川をながめながらほんのりあたたかい湯がなんとも心地良い。

泉質は弱アルカリ性のナトリウム。皮膚病や慢性婦人病に効能がある。



大滝温泉「遊湯食館」☎0494(55)0126 AM 10:00 ~ PM 8:00 毎週木曜日休み



「遊湯食館」には大広間の休憩室の他に個室(有料)もあり。3時間ゆっくり温泉が楽しめる。休憩室の入口にある食事処(セルフサービス)ではおでんやうどんに生ビールを注文する客が多い。入館料 大人 600円

温泉たまご →

ざるそばAセット

ミニぬぎとろ丼

1200円 →

そばうゆ →



敷地内にあるログハウスの食事処「郷路館」では本格手打ちそばにぬぎとろ丼やうな丼をセットにした満足度100%のメニューが用意されている。

編集後記 「土木の時間」を感じるのはどんな時だろうか。特集では、人の営みを支え続けてきた土木物が、超越した時間の流れを持つ懐の深さ、それらに向かい合ったときに沸き上がる感情を土木遺産ツアーに繋げる楽しさを原口氏が伝えている。今年から始まった台湾・烏山頭ツアーでは地域民をいまでも支えている土木事業の足跡を高橋裕氏と辿った。「歴史に学ぶということは、明日の社会をどのようにつくり、どのように生きていくかを考えることです」(大濱氏)という教育界からの発言は土木界にとって心強い。歴史的な土木資産を現代社会に活かすためには、「歴史からだけでなく、専門家との連携」が必要だとする北河氏の指摘は、歴史資産の持つ総合性ゆえに必然である。こうした専門の垣根を超えた活動連携こそ土木界の活路でもある。(〇)

国づくりの研修

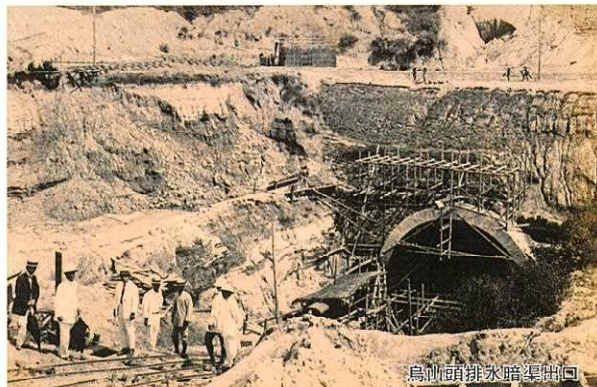
KUNIZUKURI TO KENSHU

平成20年10月30日発行©

編集 『国づくりと研修』編集小委員会
 東京都千代田区永田町1-11-32
 全国町村会館西館7階
 〒100-0014 TEL 03(3581)2464
 発行 財団法人全国建設研修センター
 東京都小平市喜平町2-1-2
 〒187-8540 TEL 042(321)1634
 印刷 株式会社 日誠

次号の特集

「土木偉人」を伝える



烏山頭排水暗渠出口

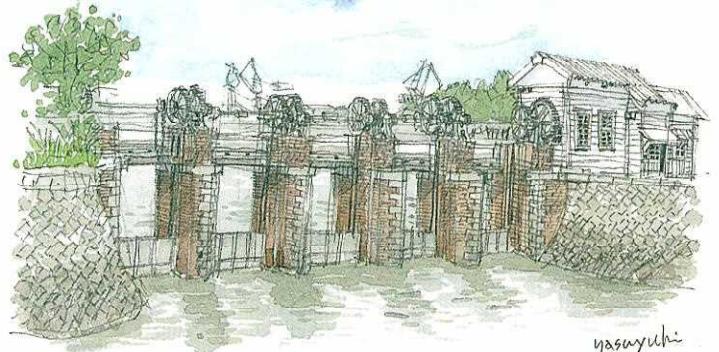
土木学会では、11月16日~18日、土木の日記念行事の一環として、「土木コレクション」と題し、後藤新平や田辺朔郎など人物やプロジェクトに関する資料等を展示する。土木の魅力、スケールの大きさ、奥の深さを一般市民に伝えたい意図がある。土木偉人映像展では、八田與一にスポットを当てて貴重な工事写真や映像を公開する。折しも、八田技師の人と業績をテーマに描くアニメーション映画「パッテンライ!」が完成。土木偉人をエンターテインメントとしてポピュラーな地平で伝播させたいとする。土木偉人をどう伝えるか。様々な取り組みを通じて土木一般理解への道筋を探る。

今号の表紙スケッチ

【三池炭鉱】 福岡県、熊本県

大牟田市と荒尾市にまたがる三池炭鉱は日本最大の炭鉱といわれ、一時全国の採炭量の4分の1を占めるほどであった。坑道は有明海の地下にまで広がっていて、深さは海面下400m以上にもおよび、炭鉱に入る坑口は20以上もある。江戸時代に柳川藩、三池藩が採掘し、明治の初め官営となって本格的な採掘が始まったが、1889年に三井に払い下げられた。三井を統率した団琢磨は炭鉱の近代化や経営の合理化を図り、1891年に石炭を運ぶ鉄道を敷き、1908年には三池港を開港した。万田坑は1902年に操業を開始し、最先端の技術を導入して三池炭鉱の中でも最大の採炭量を誇ったという。しかし戦後、エネルギー資源の転換で石炭産業が斜陽に陥ると、1年におよぶ労働争議や、多数の死者を出した炭塵爆発事故や坑内火災などによって徐々に衰退し、1997年に閉山した。日本の工業近代化に大きく寄与した石炭産業の象徴として、国の重要文化財や史跡に指定された巨大な櫓と煉瓦造りの巻揚げ室が草むらに囲まれた敷地にひっそりと残っている。

(絵と文/安田泰幸 © YASUDA YASUYUKI)



三池港

石炭積出しのため1908年に築かれた。浅海の港に大型船を入れたため、開門がくられ水位を調節した。



旧三池炭鉱専用鉄道

各坑口へ資材を運搬し、石炭を運い出す。そして坑内で働く鉱夫を運んだ。